



「先輩」と「私」

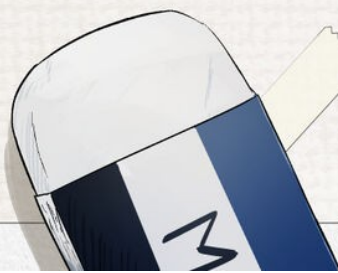
「先輩」

美術部の先輩。2年生。
黒髪ボブのいかにも文系といった
感じの見た目。実際は数学の方が
得意。
教室ではいつも一人で本を読んでいる。
クールで人を寄せ付けない印象



「私」

先輩に一目惚れして美術部に入る。
先輩と同じ高校に行きたいから、
勉強を頑張ってるらしい。
先輩はこっそり志望校のランクを
少し下げたとか。
要領は悪いけど人一倍努力家。

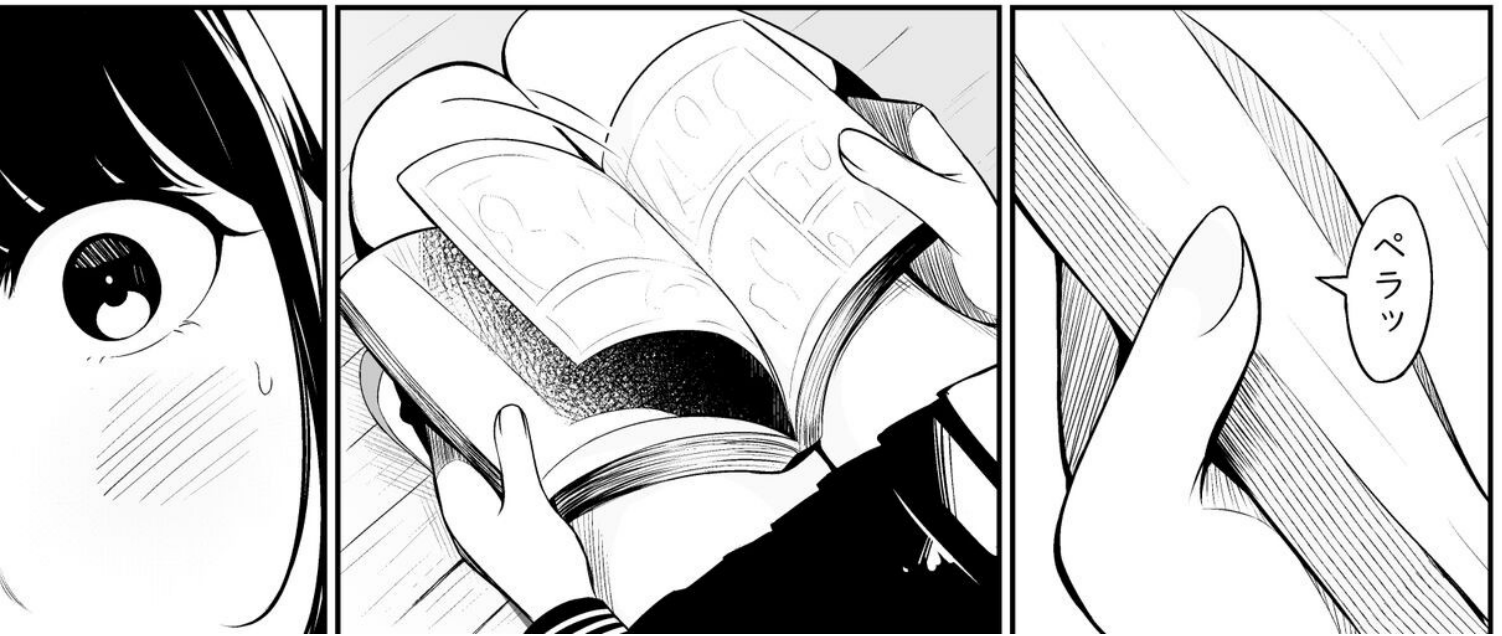


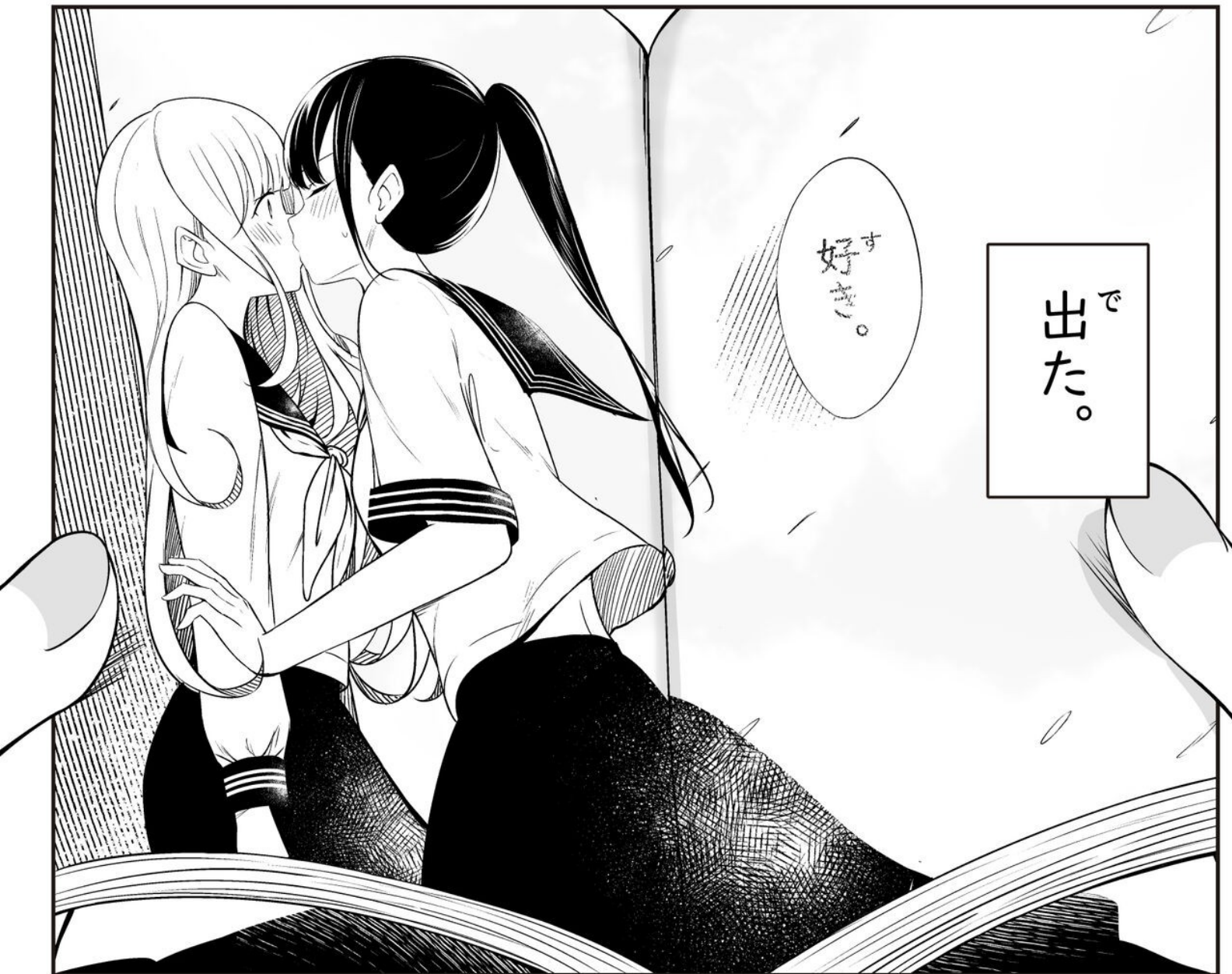
「先輩^{せんぱい}はしたことがあるのかな、
……キス。」





じかん す
「この時間が好きだ。」





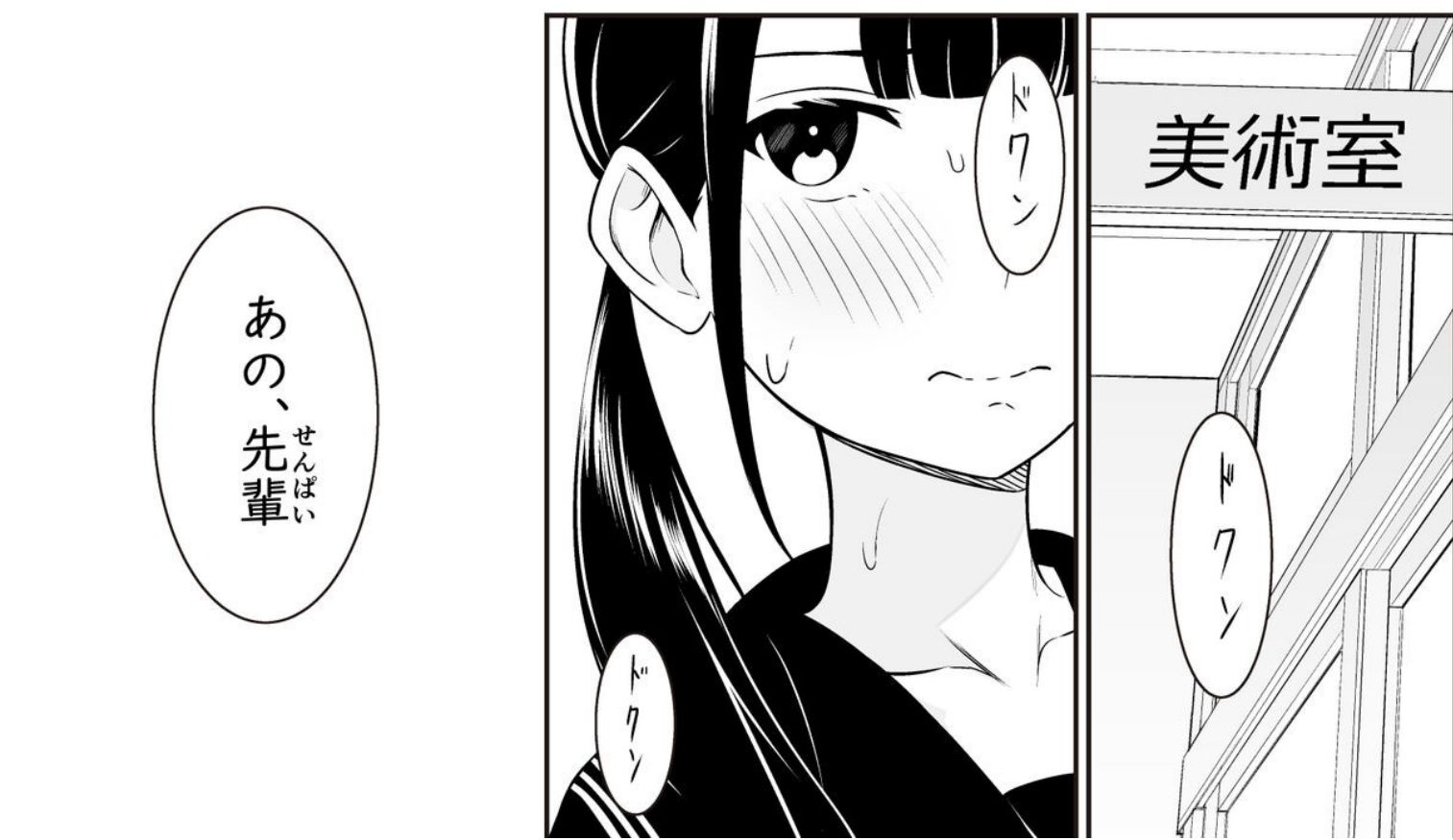
好き。
す

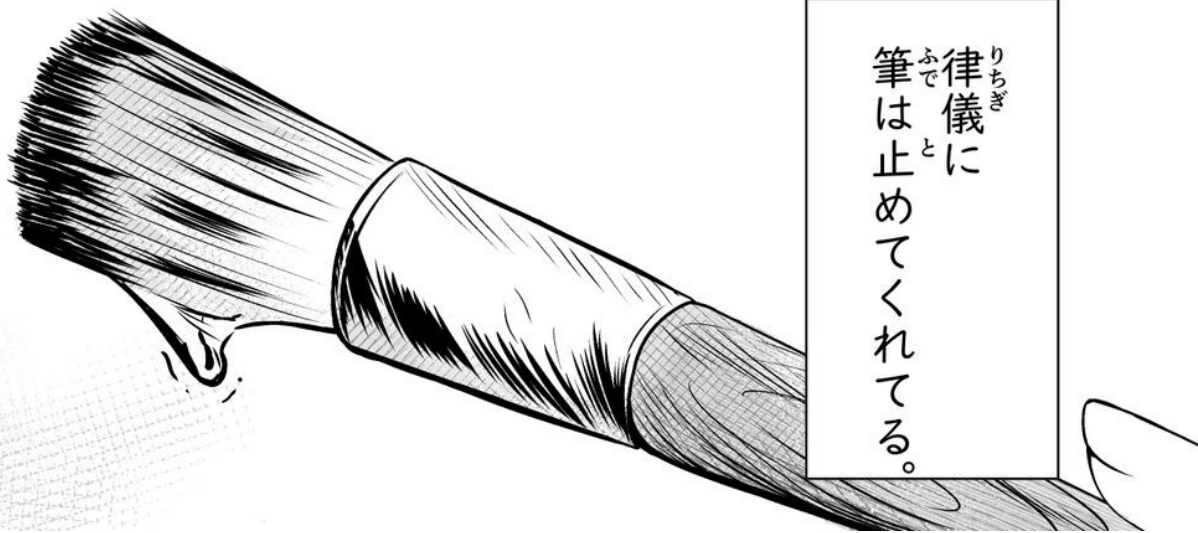
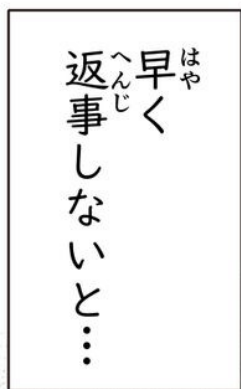
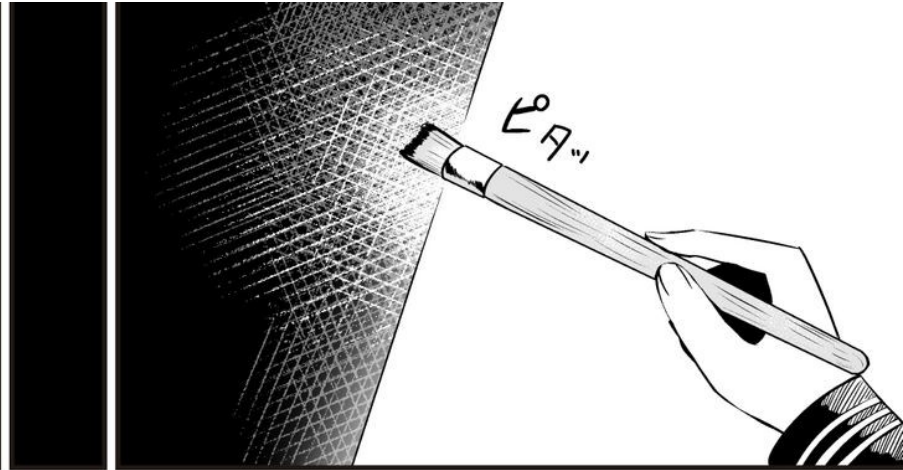
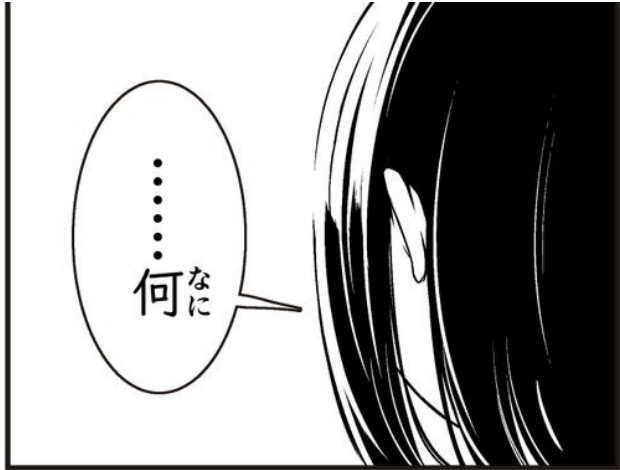
で
出た。



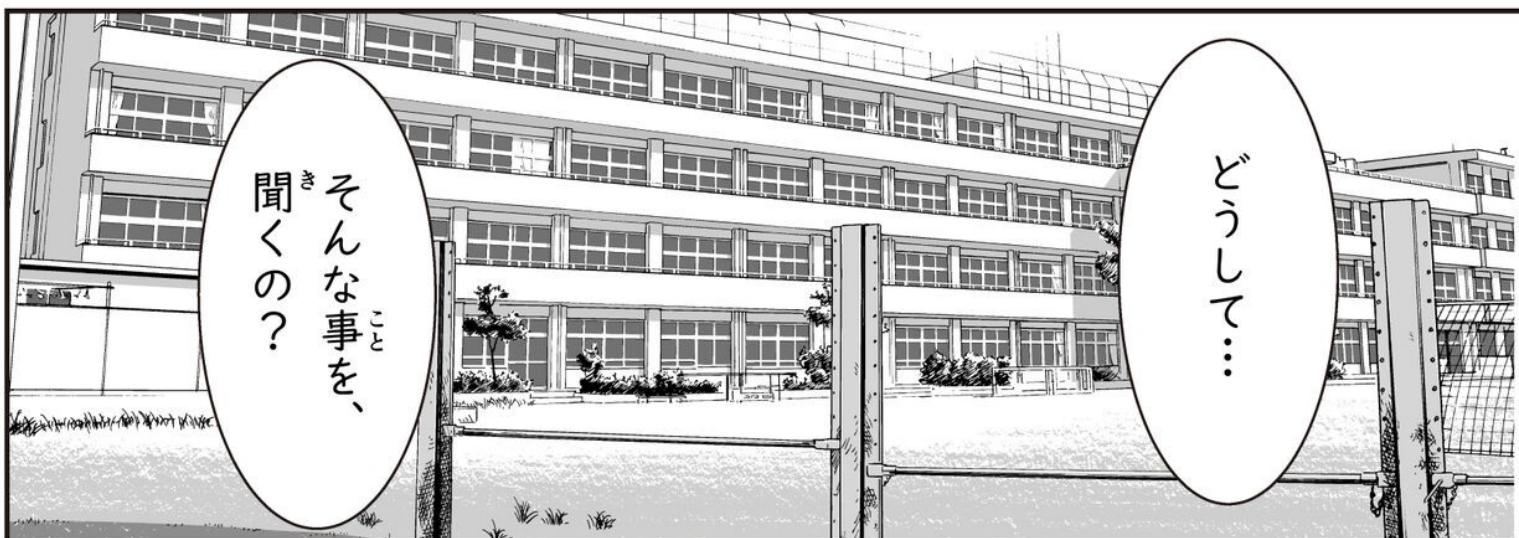
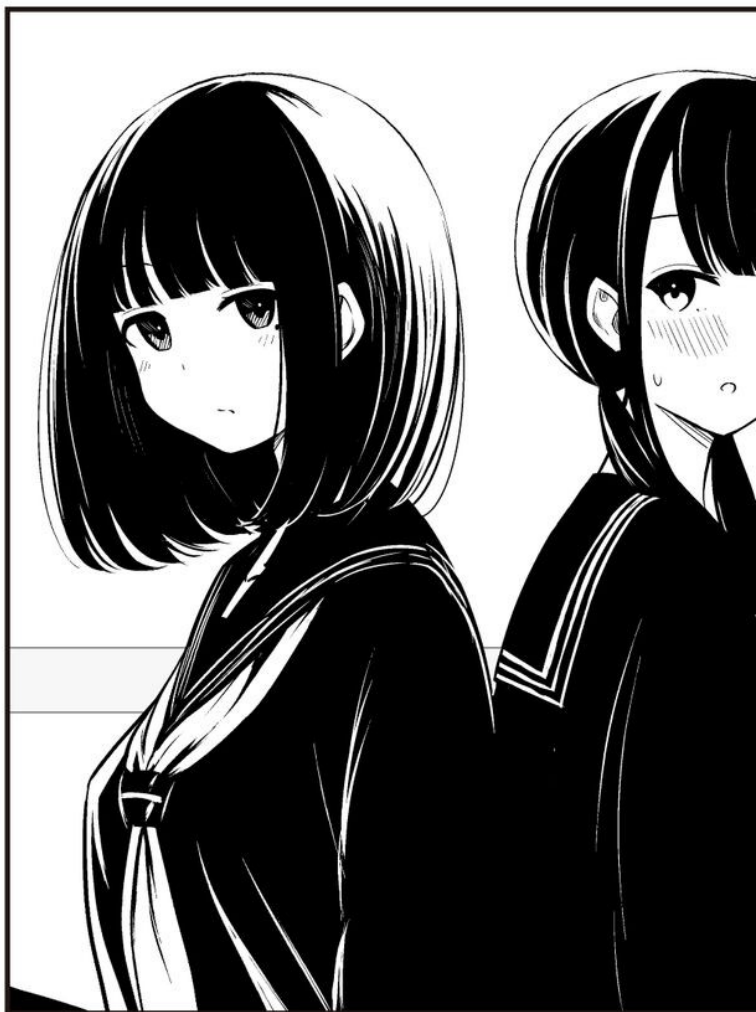
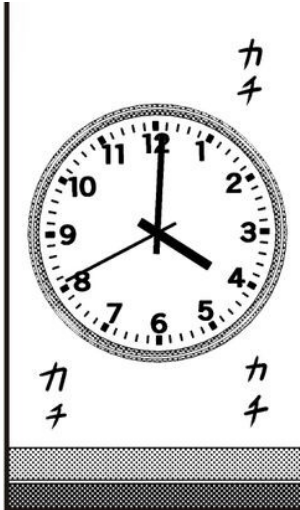
「そんなに良いのかな、」

「^{キス}これ。」



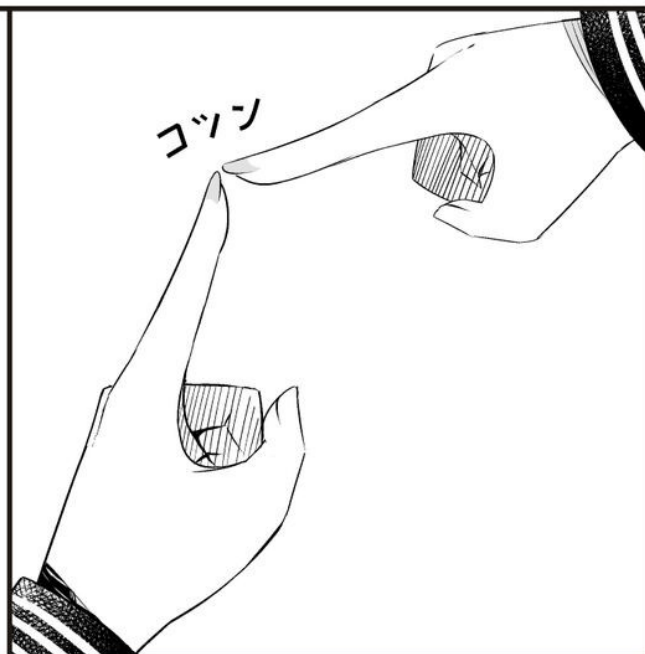


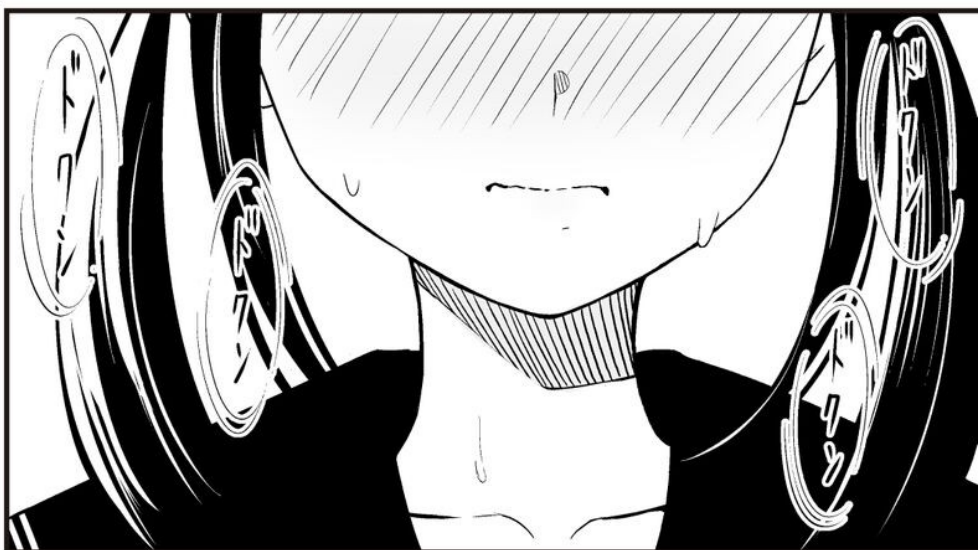
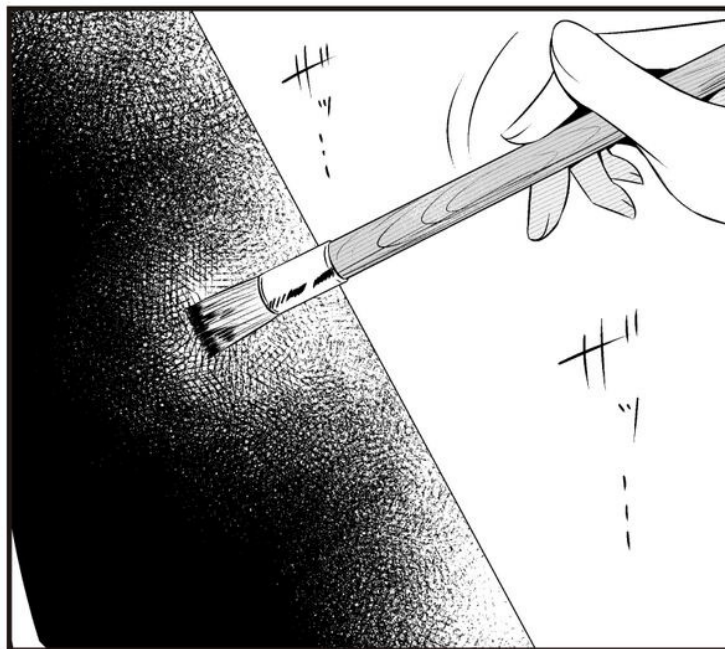
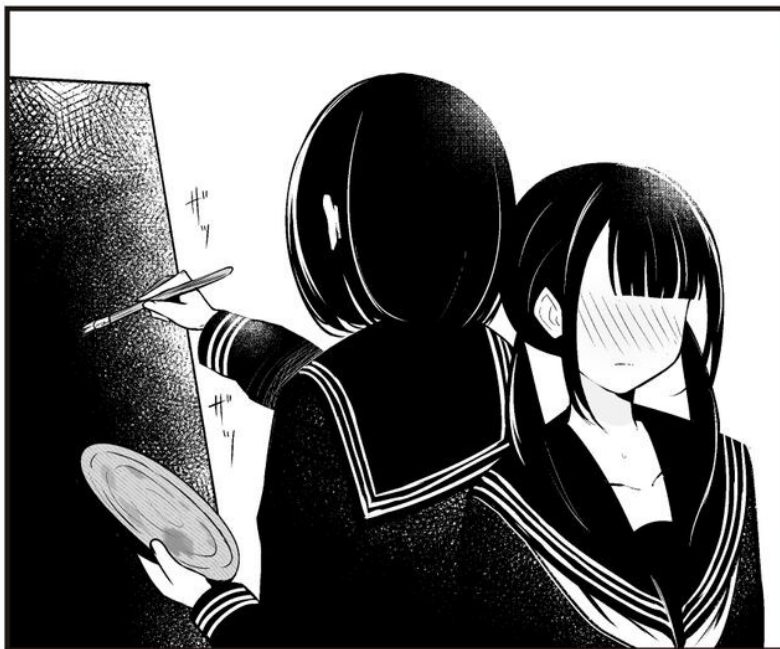






「えーと、」

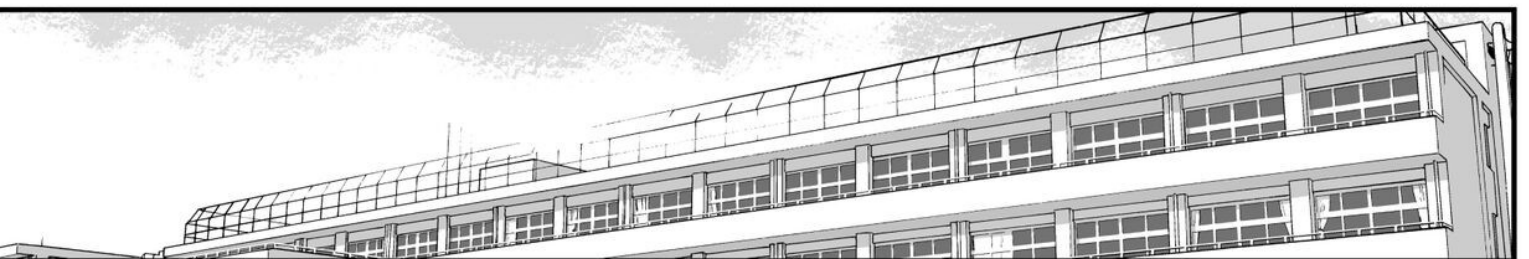


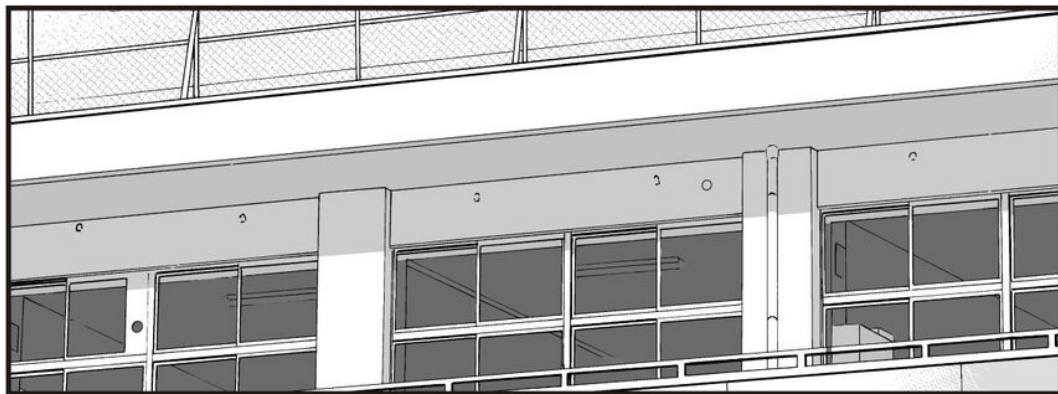


あの、
せんばい
先輩。

キス：
してみませんか？

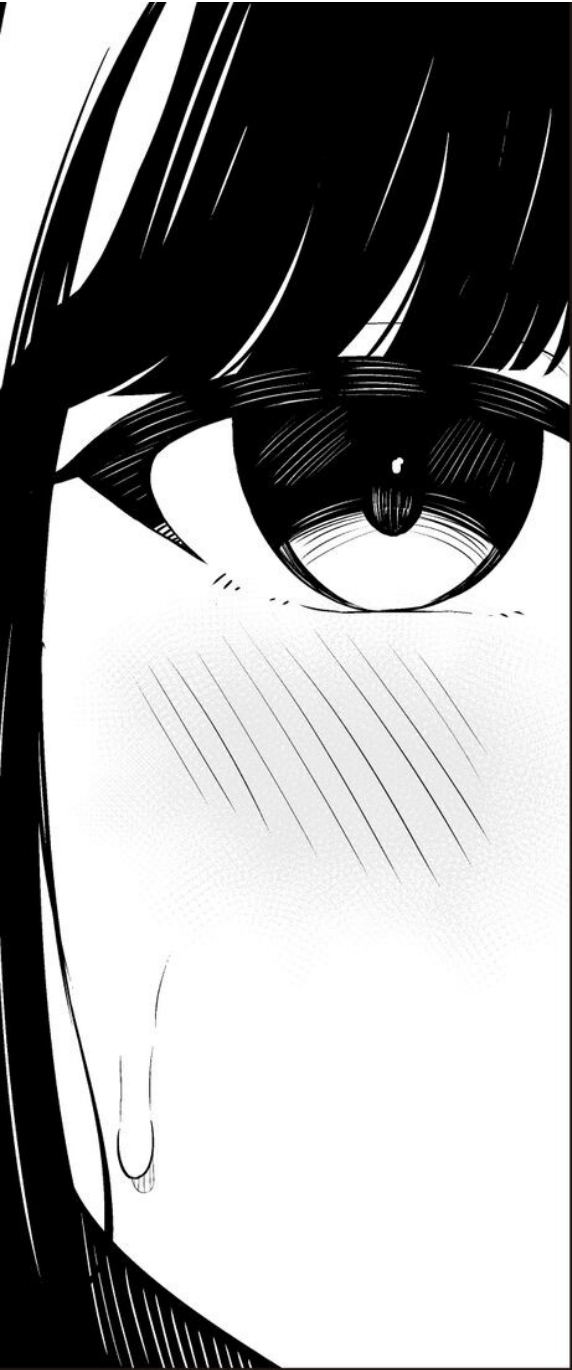
…わたし
私と





ほんとう
本当にして
良いのかな……？

いきお
勢いで言っ
てしまっ
たけど……



「すこ
少し……あか
赤い？」

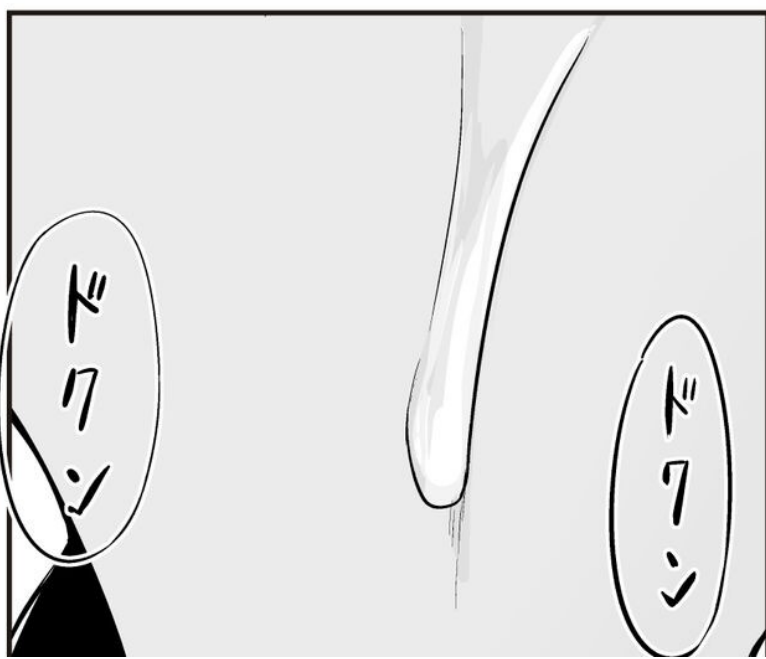
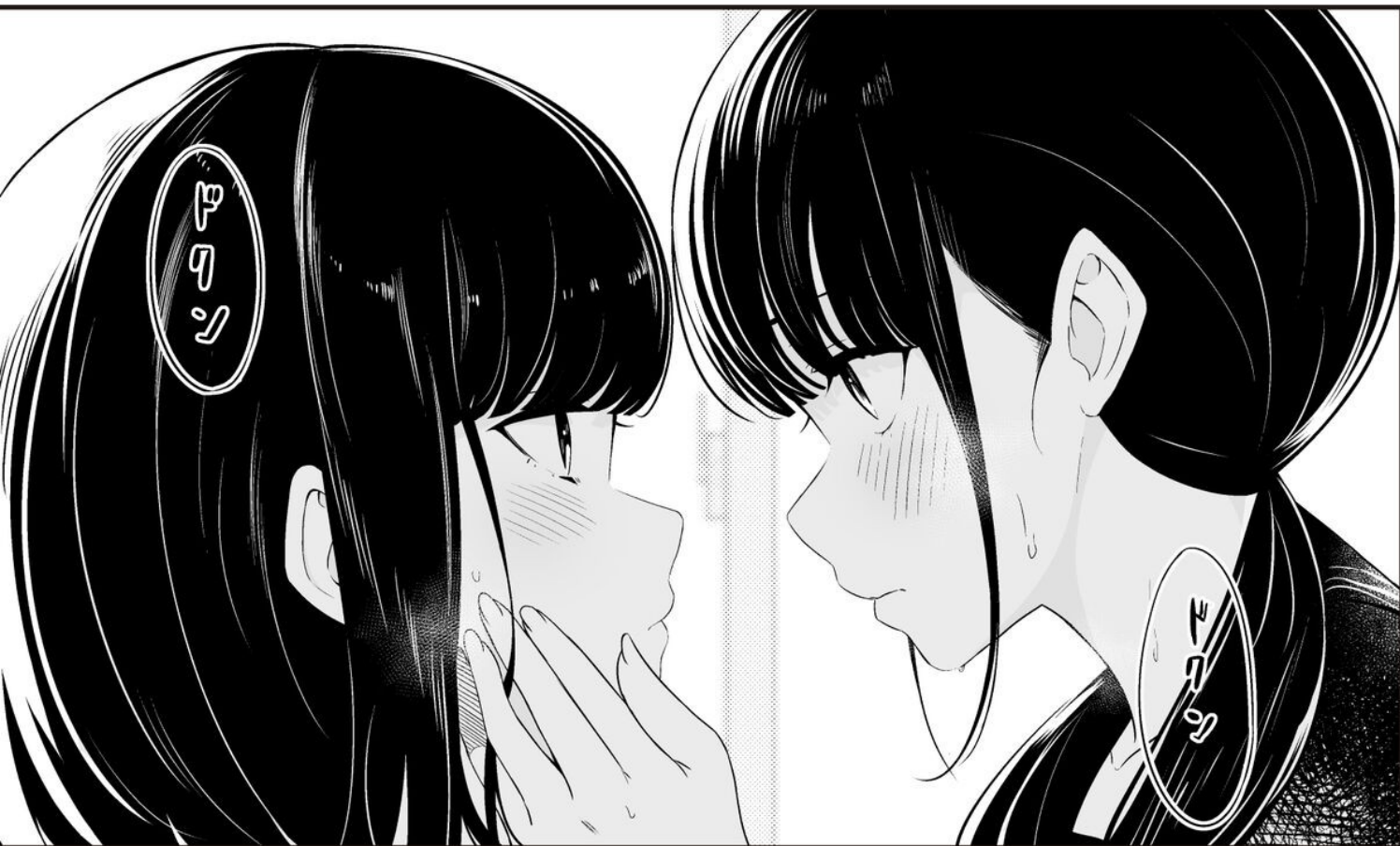
美術室の
静けさが、

グラウンドに響く
陸上部の声を際立たせる。

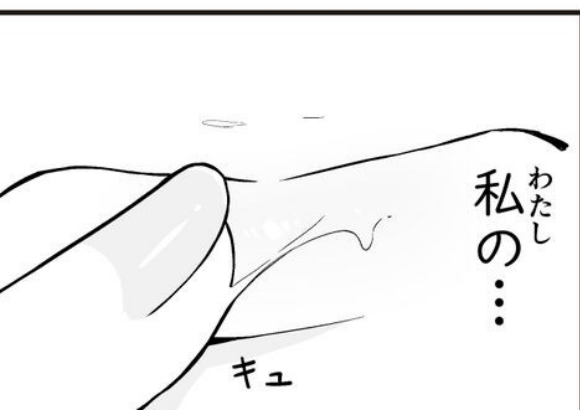
ばか馬鹿みたいに
脈打つ心臓が、

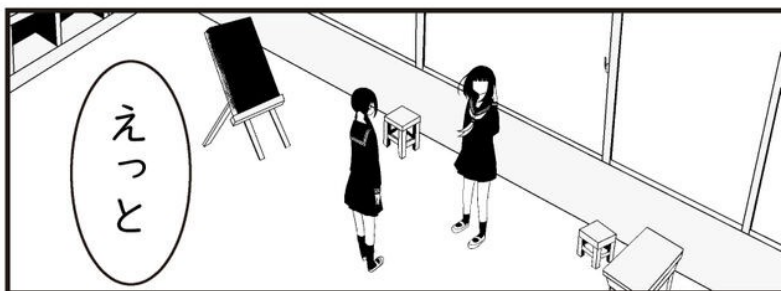
じゃあ、しますよ

先輩の耳に
届いてしまう前に…

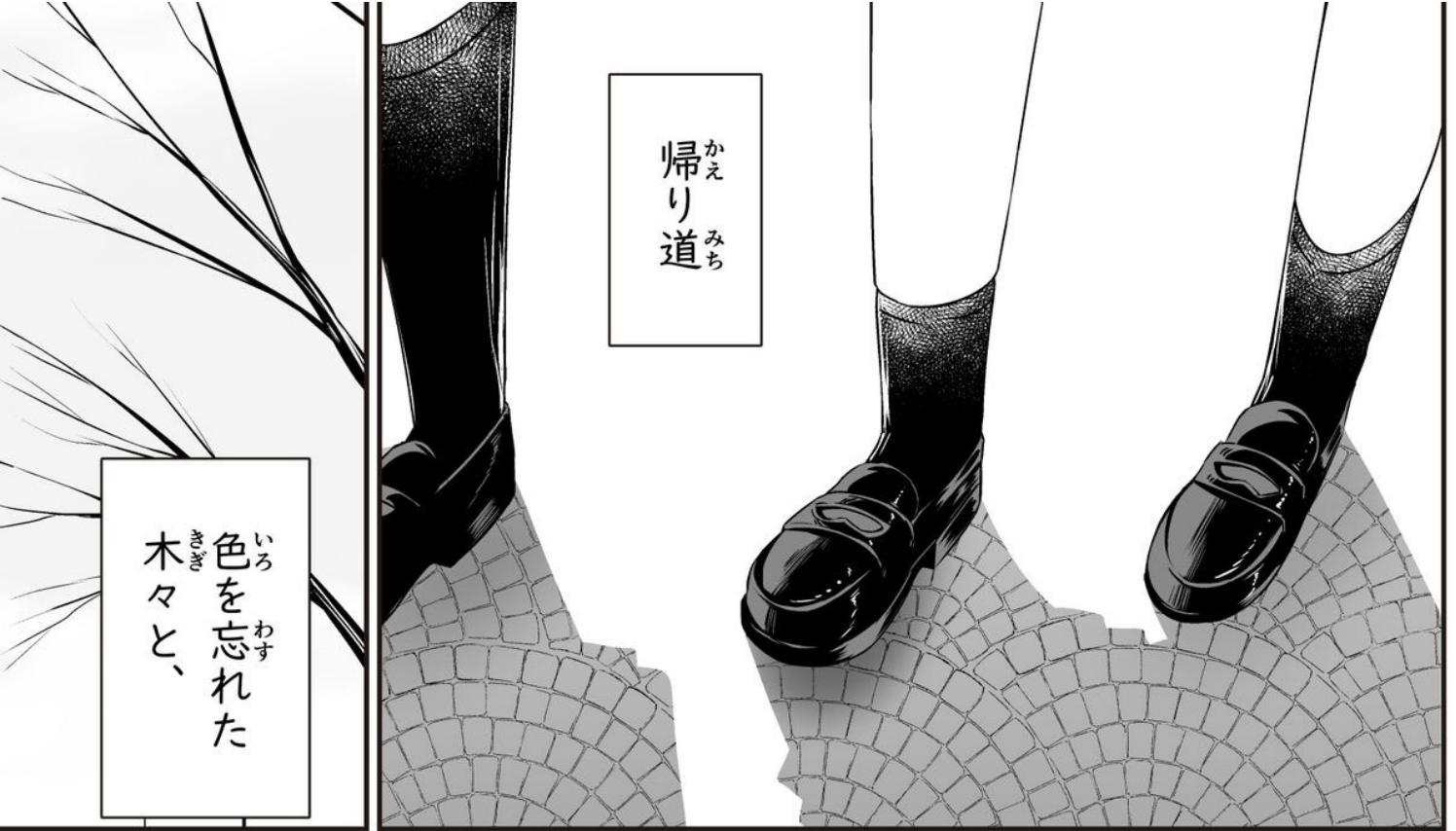








せんばい あじ
——先輩の味がした——



かえ
みち
帰り道

いろ
わす
色を忘れた
き
木々と、



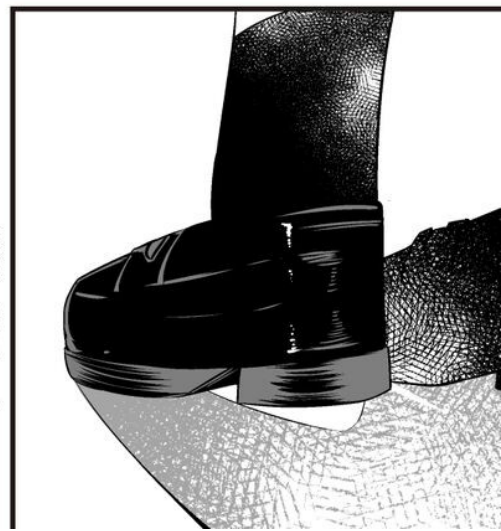
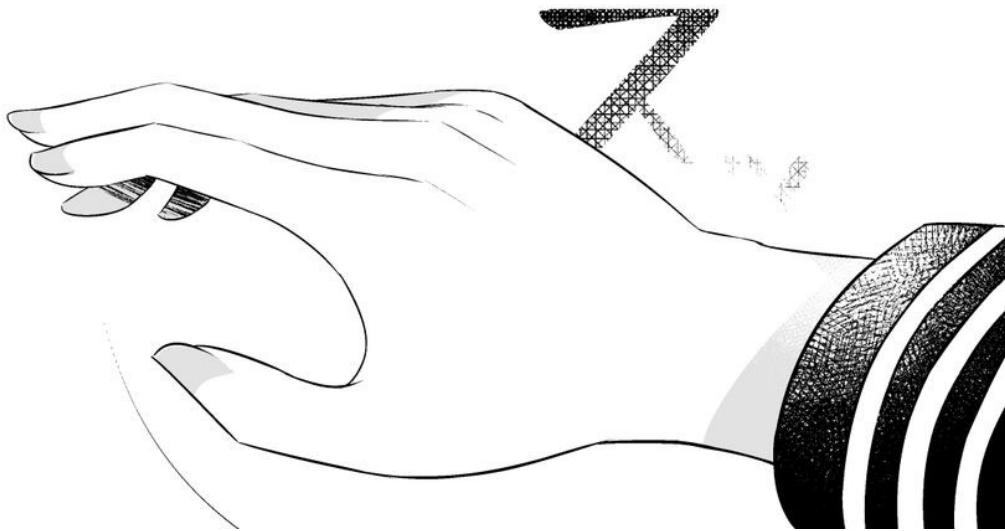
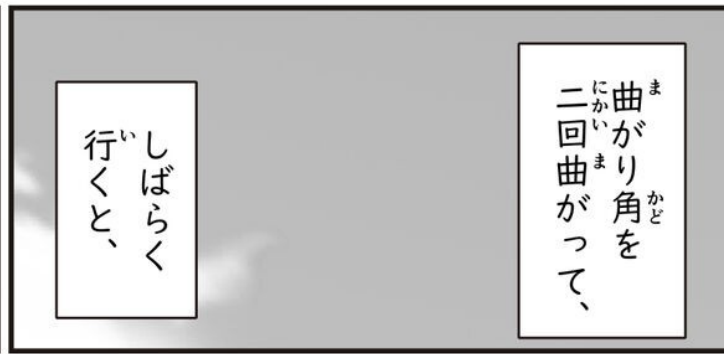
さむ
寒い。

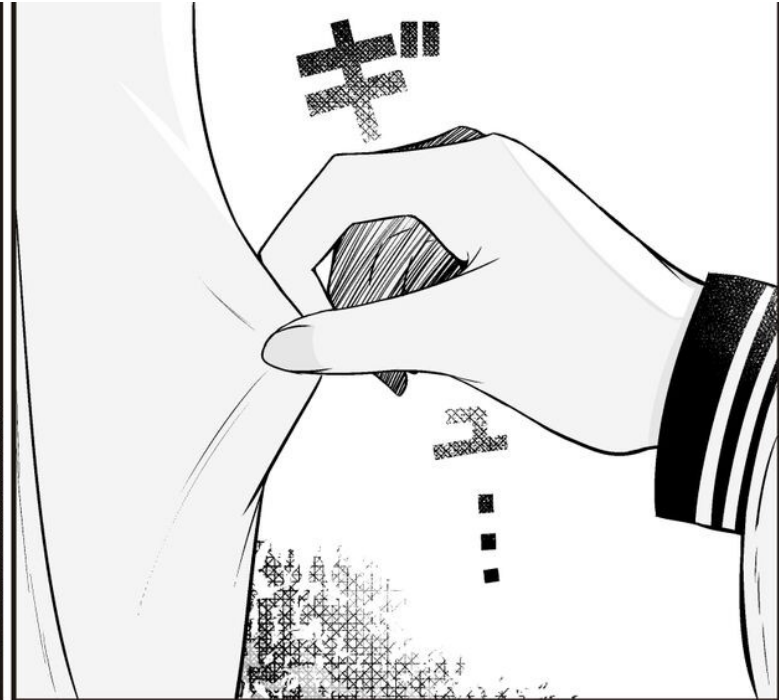


ですね。

しろ
いき
白い息が
ふゆ
かん
冬を感じさせる。







きょう
今日のことを
わす
忘れられてしまう
き
気がした。

このまま
わか
別れたら、



わたし りょうしん
私の両親、
ともばたら
共働きで

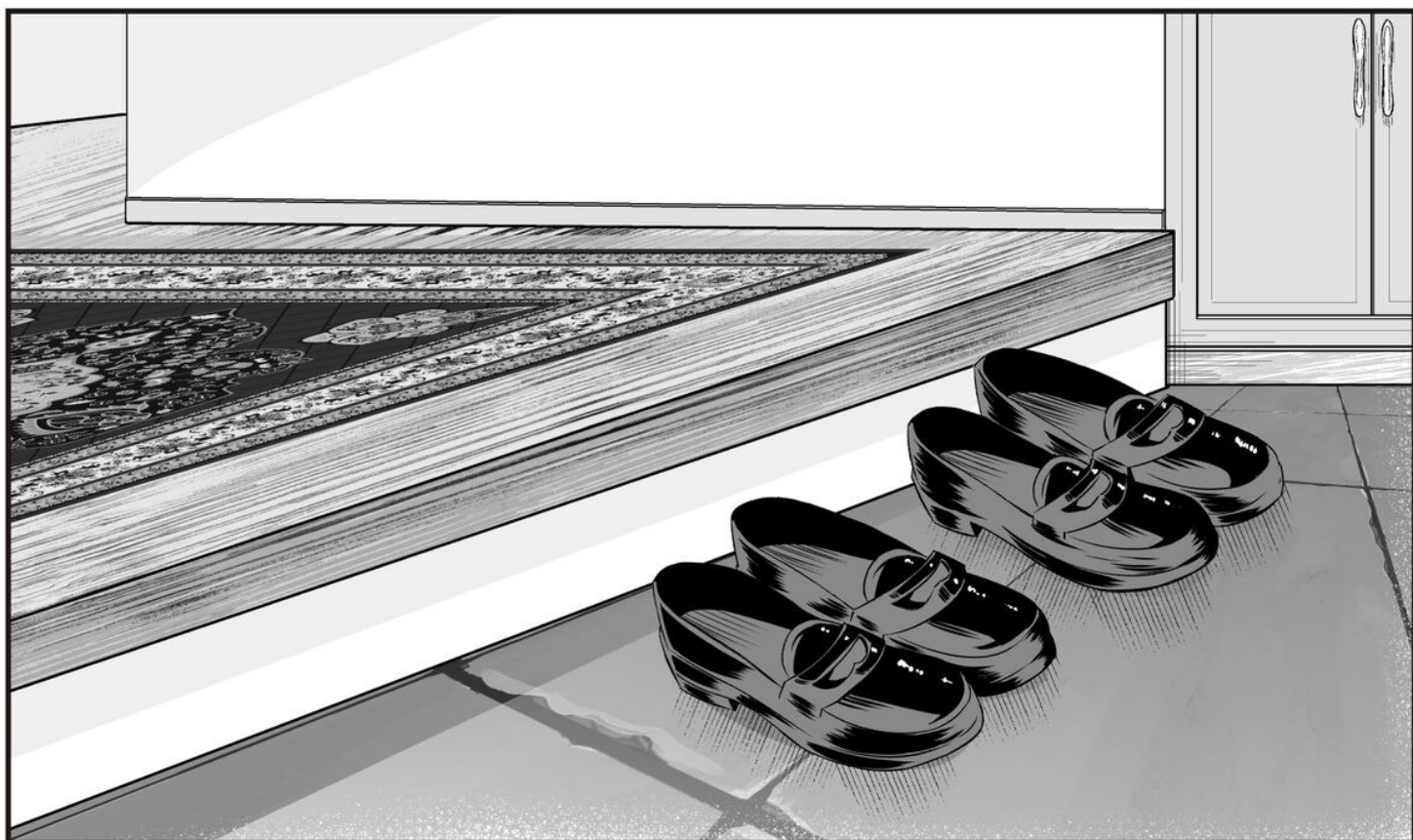


せんばい
先輩さえ
よかったら、

きょう わたし
今日の私は、
ぜったい
絶対どうかしてる。

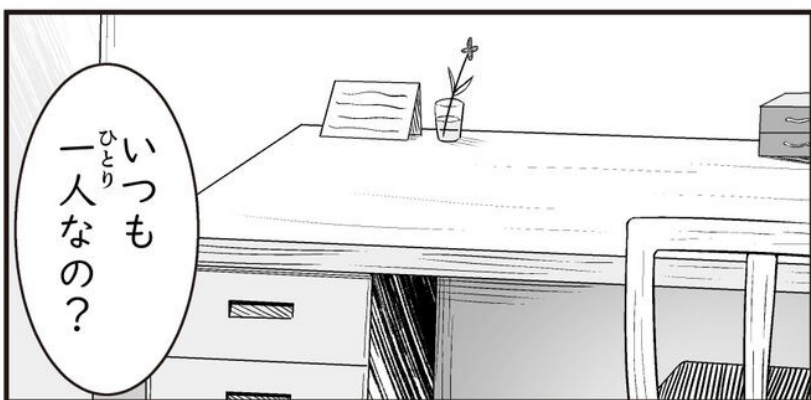
うち
家で続き：
しませんか？

きょう
今日の私は、
ぜったい
絶対どうかしてる。



よかつたら、今晚
食^たべていきませんか？

ええ



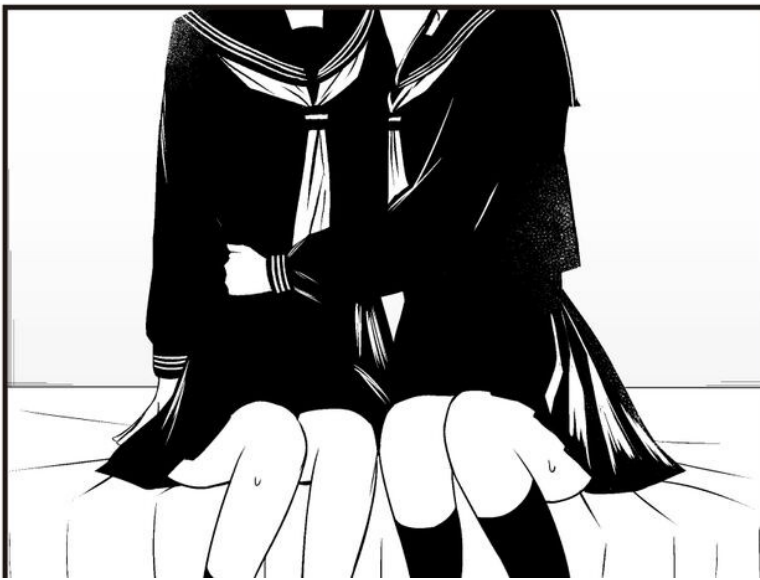
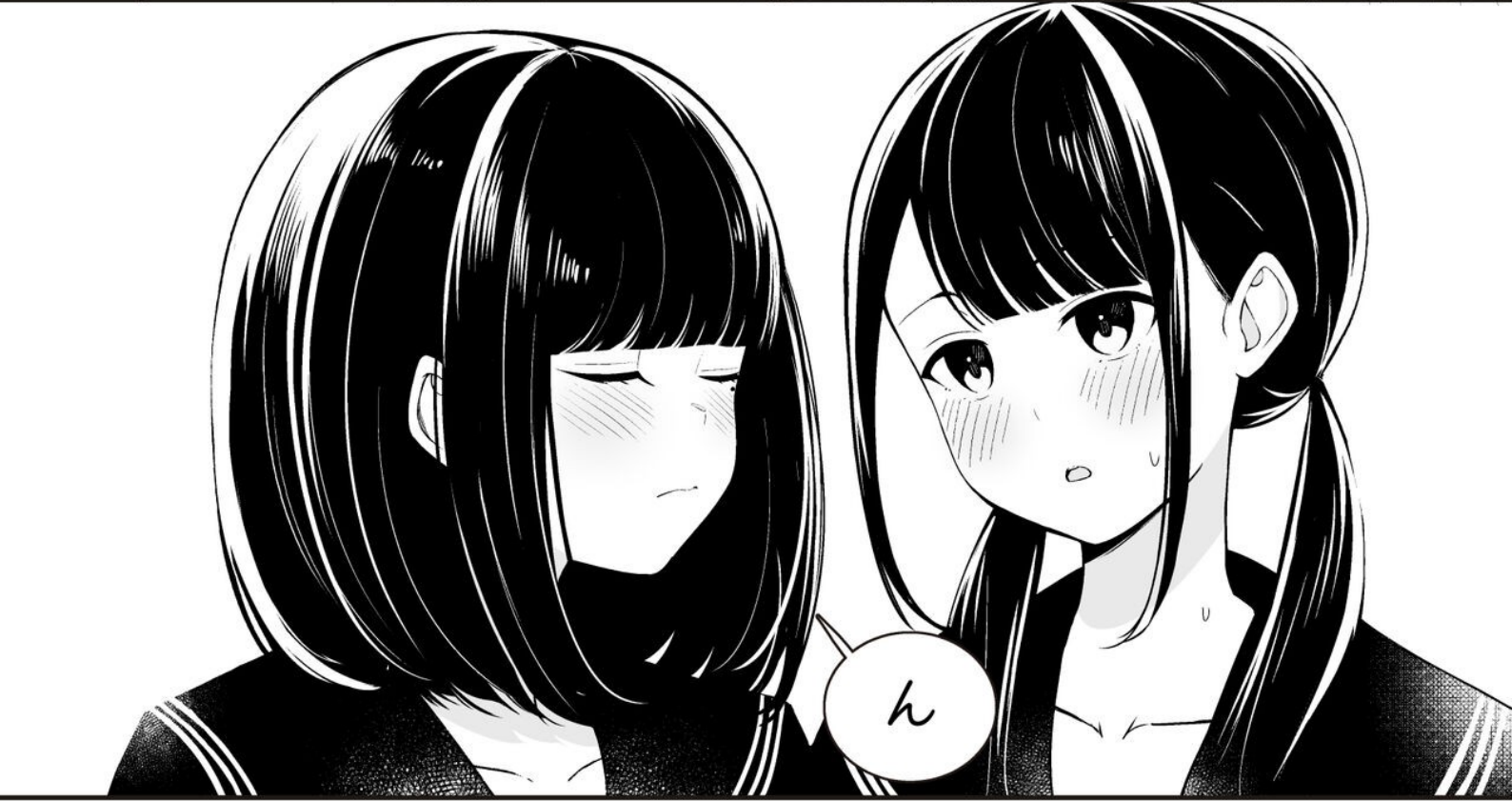
いつも
ひとり
一人なの？

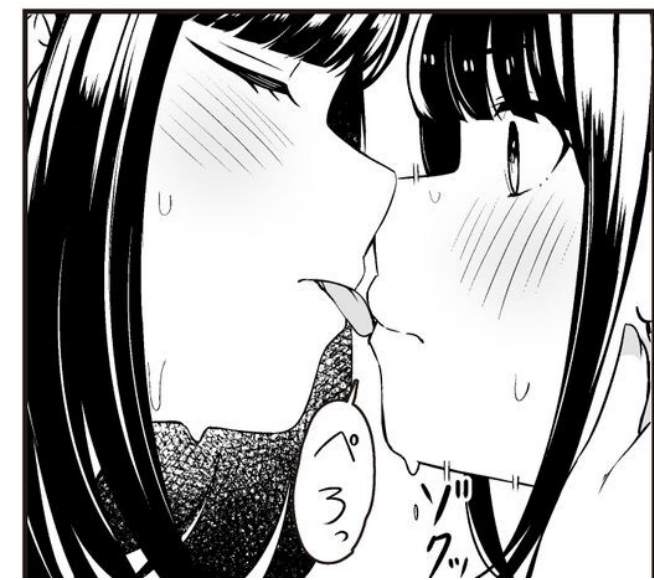
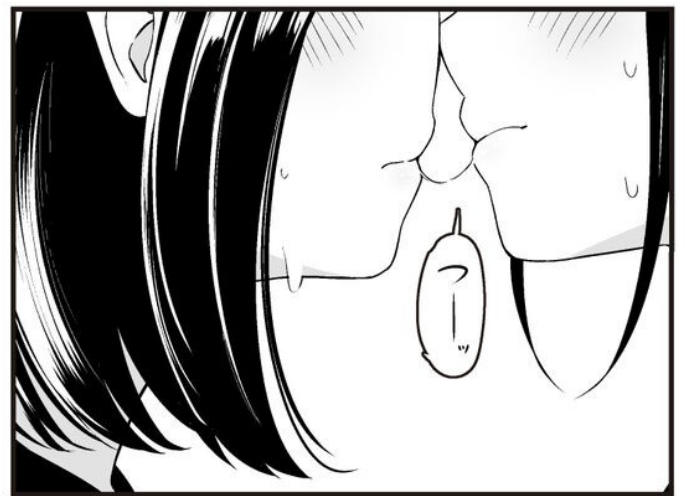
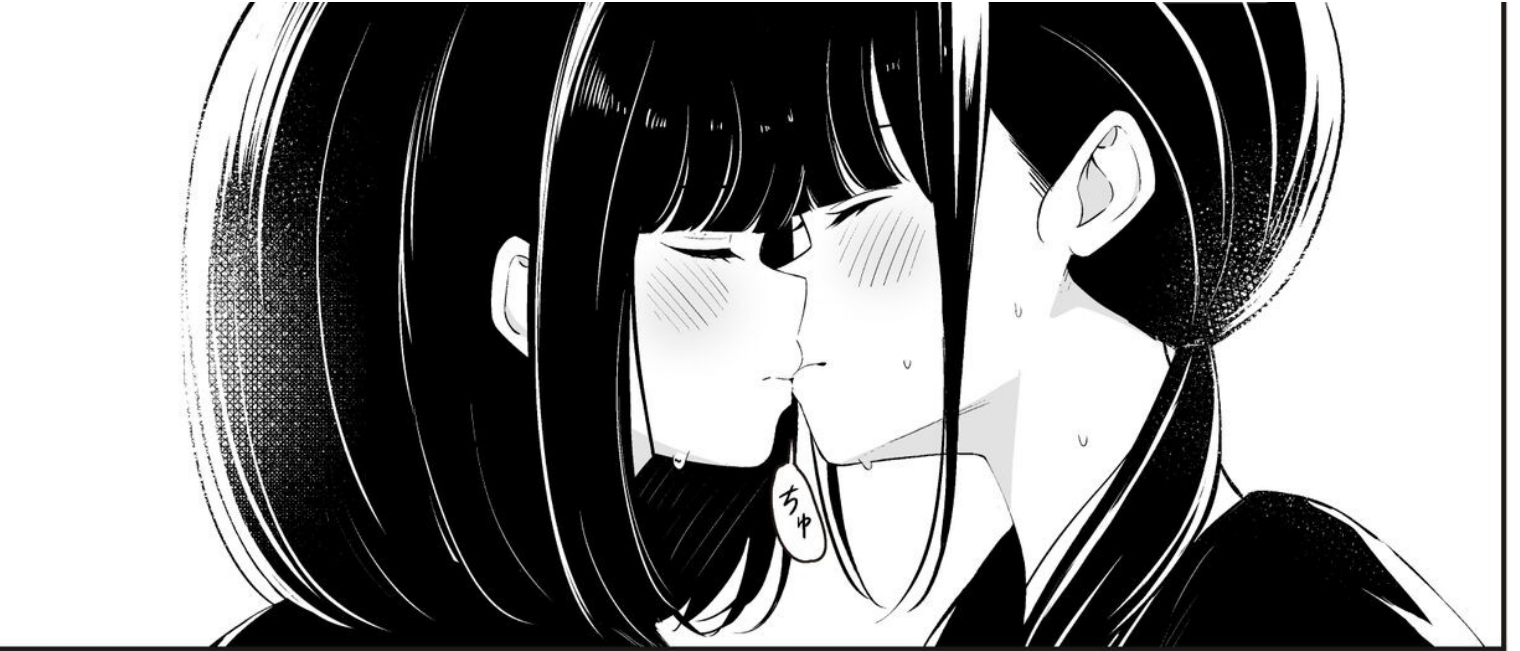


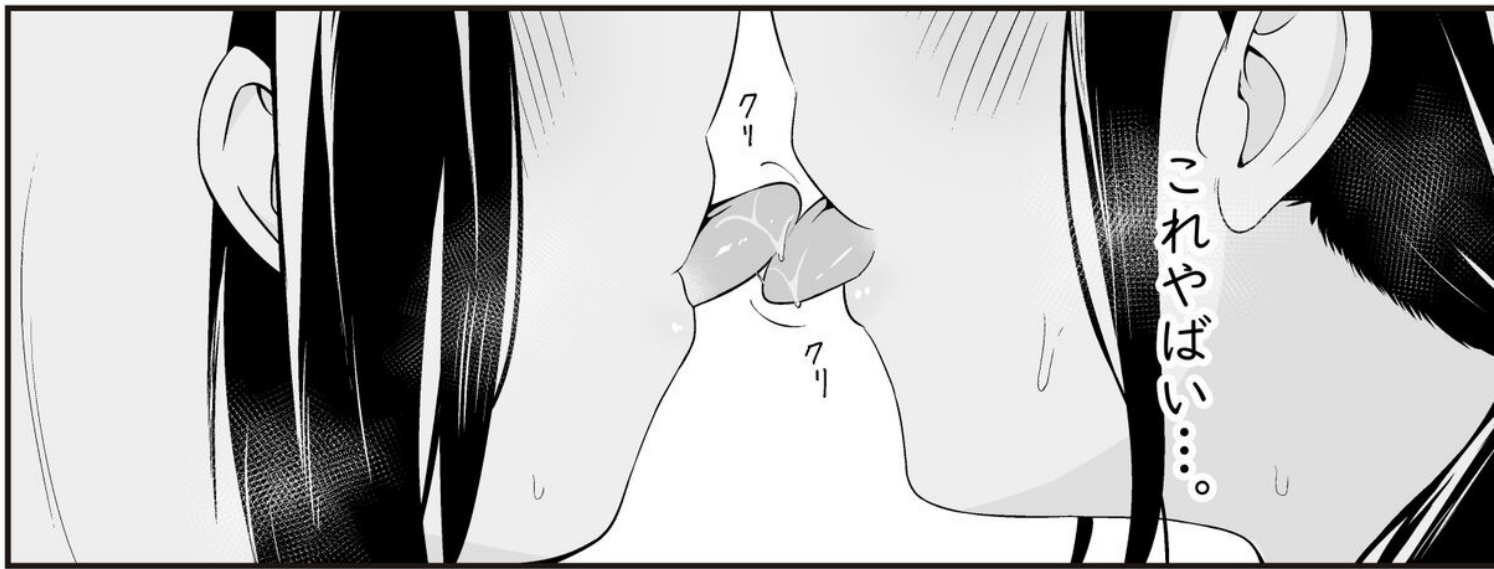
はい

寂^{さび}しくないと
言^いったら嘘^{うそ}に
なりま^なすけ^けど

その分^{ぶん}
料^り理^りの腕^{うで}は
上^{じょう}達^{たつ}しま^した







これやばい…。

クリ

クリ



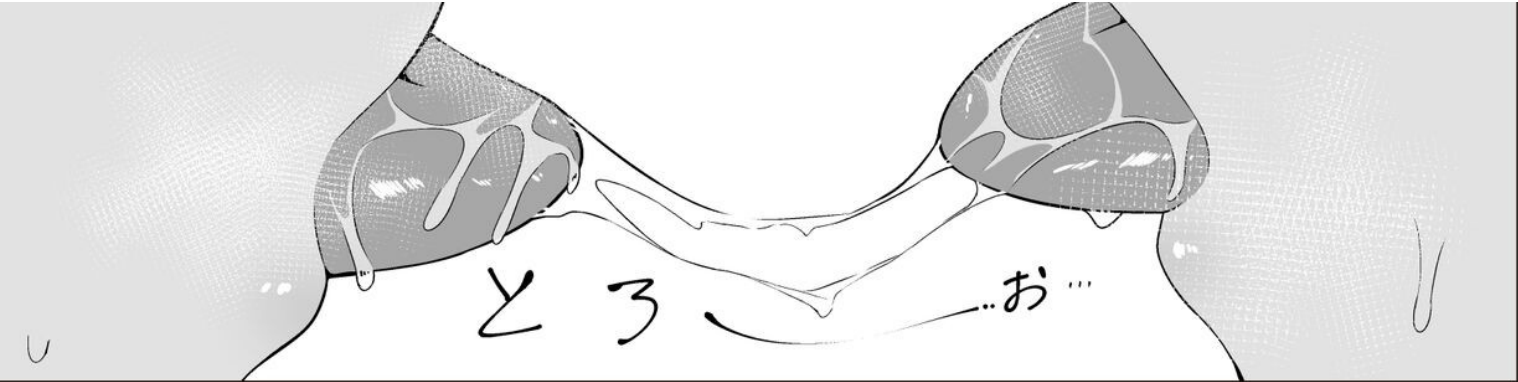
お互い^{たが}の唾液^{だえき}が
ま
交ざって……

ウウ……



境界^{きょうかい}が
わ
分^わからなくなる。

おろお……





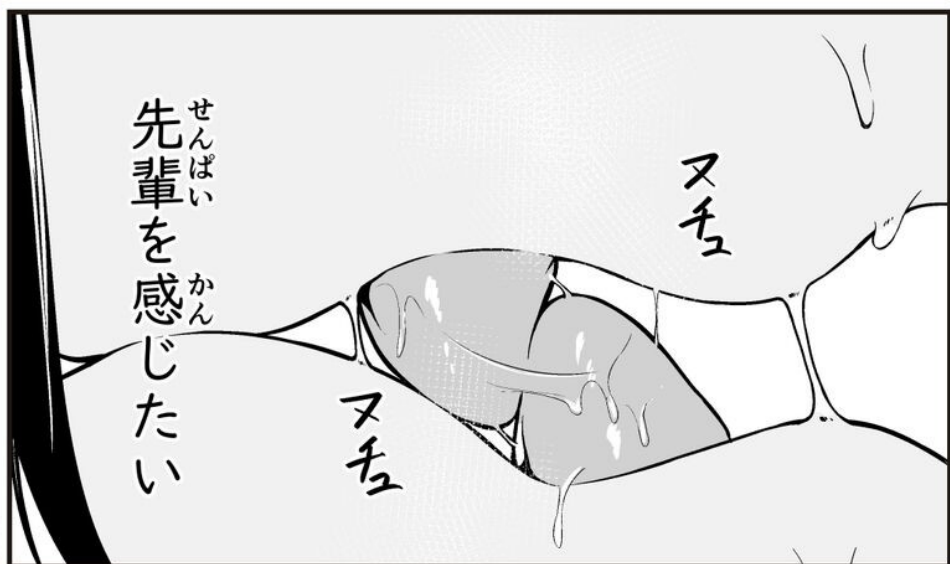
せんぱい
先輩のこと——

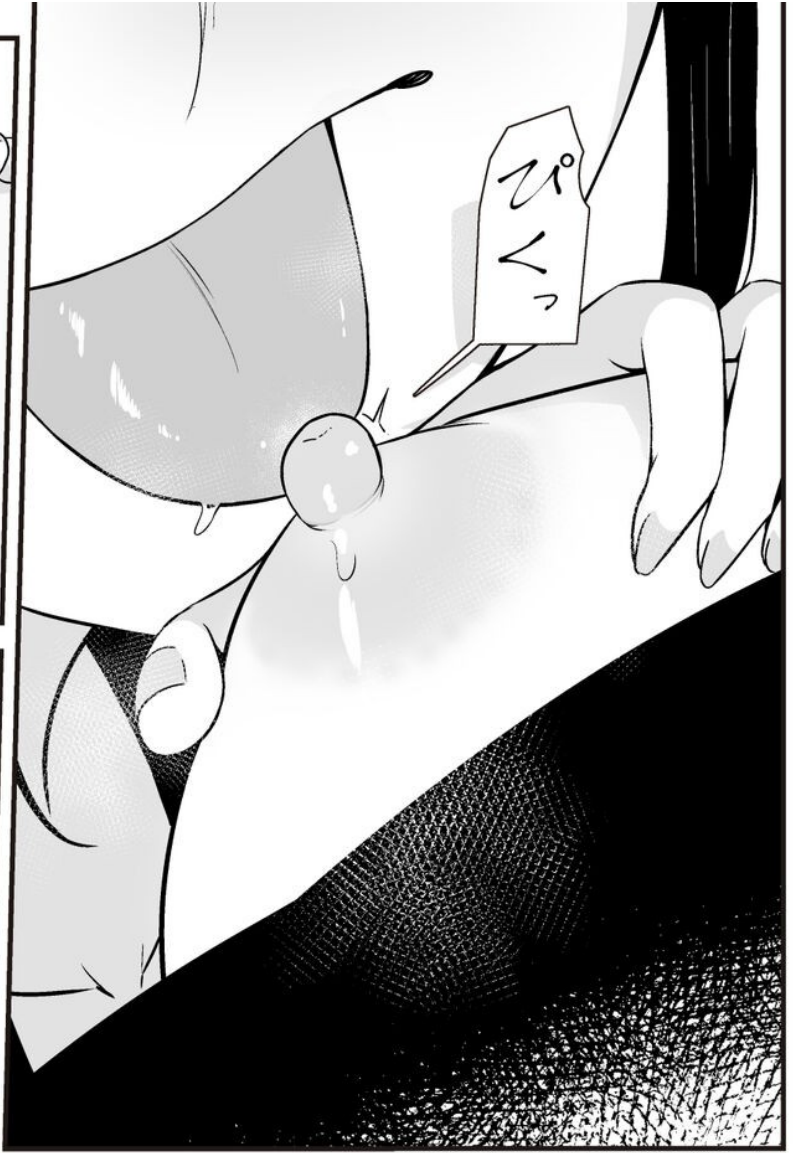
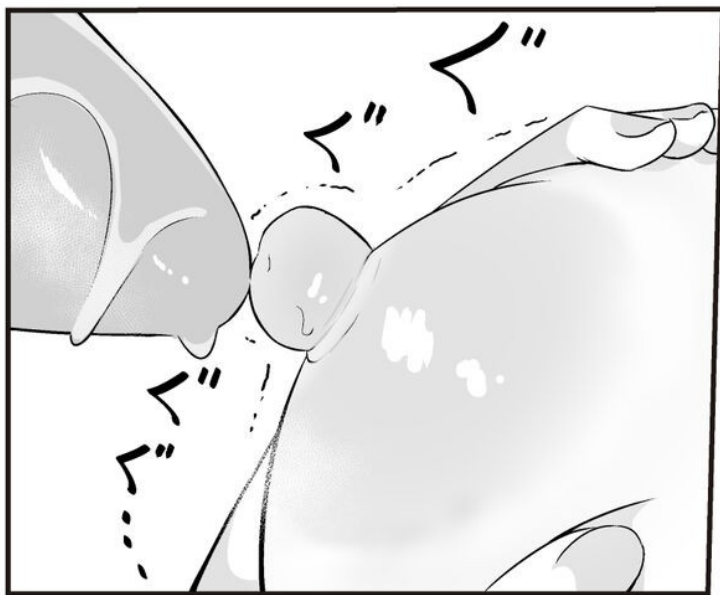
いいですよね？



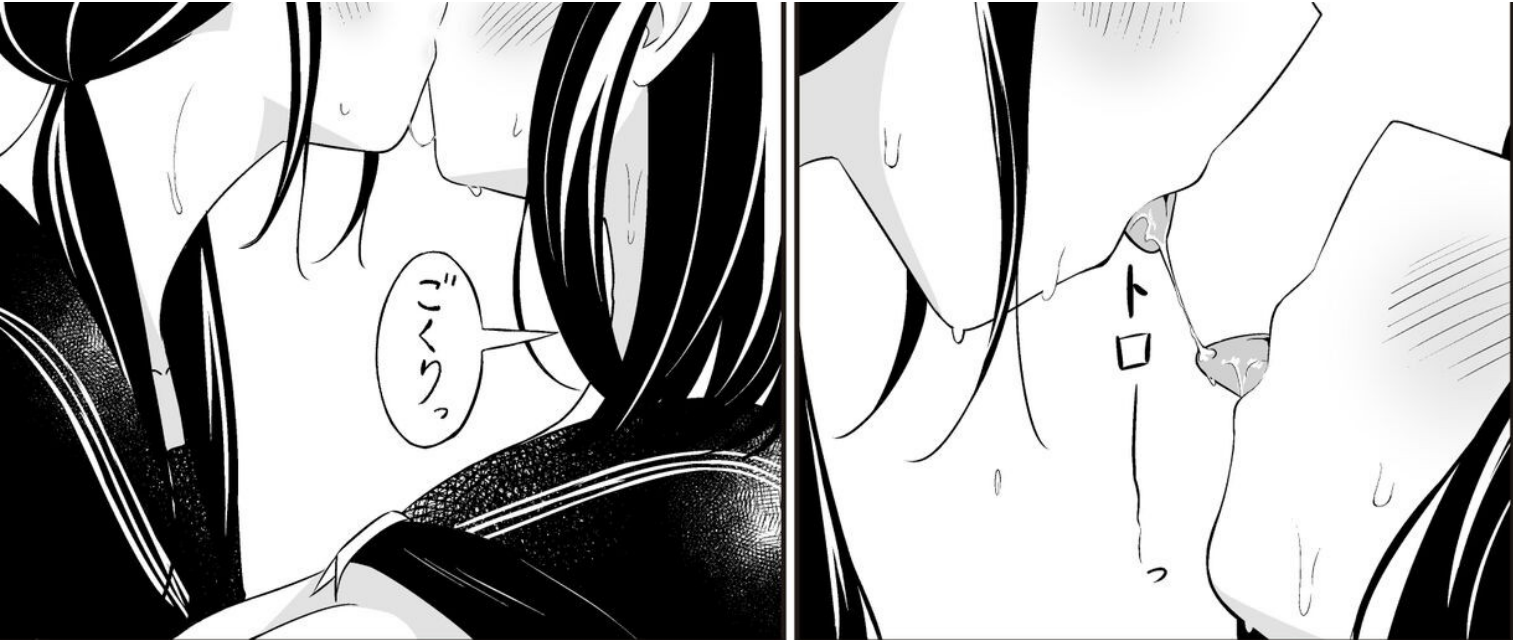
ぜんぶ
——全部。

……っ









じゃあ、先輩に
教えてあげます

わたくし
私が知ってる
気持ちいいこと...全部

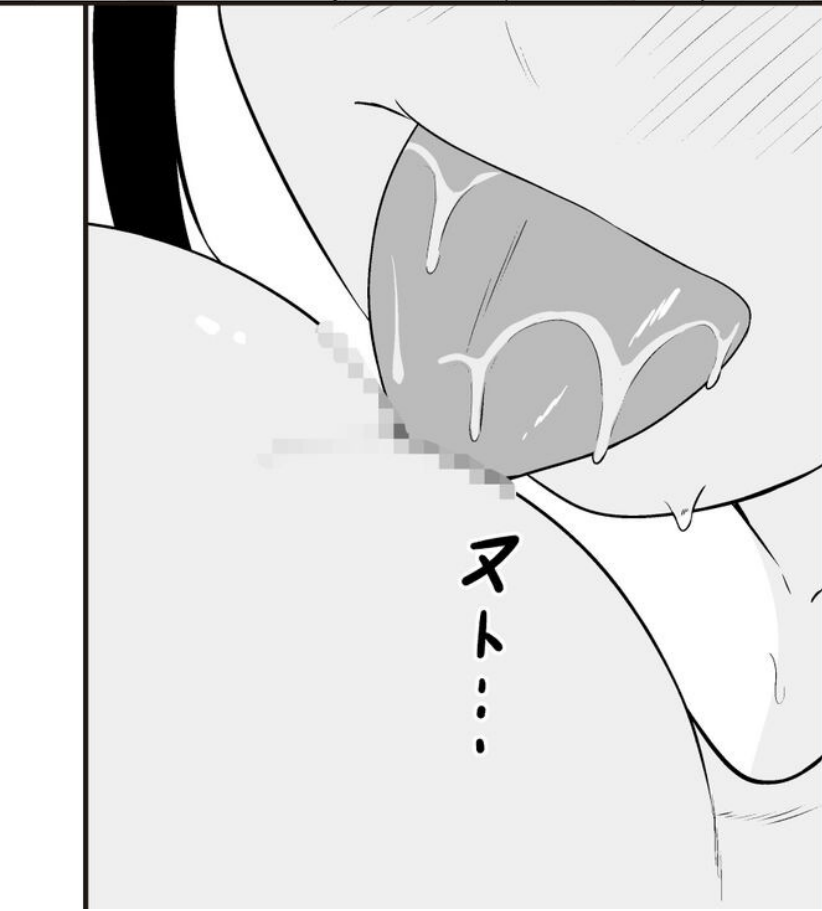






この感情は
なん
何だろう…

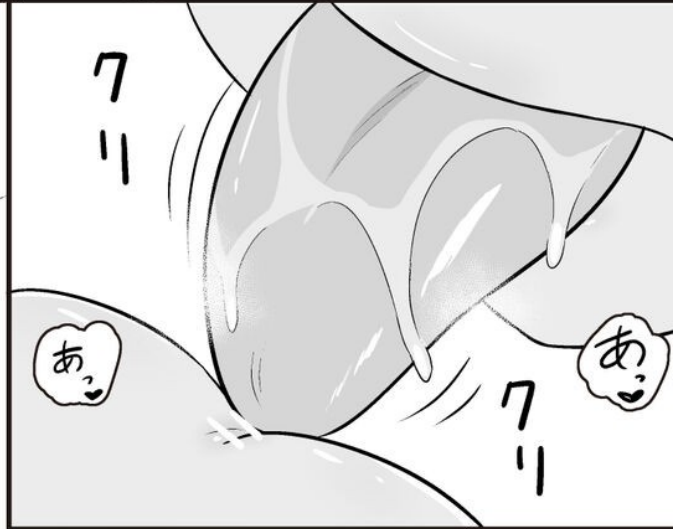
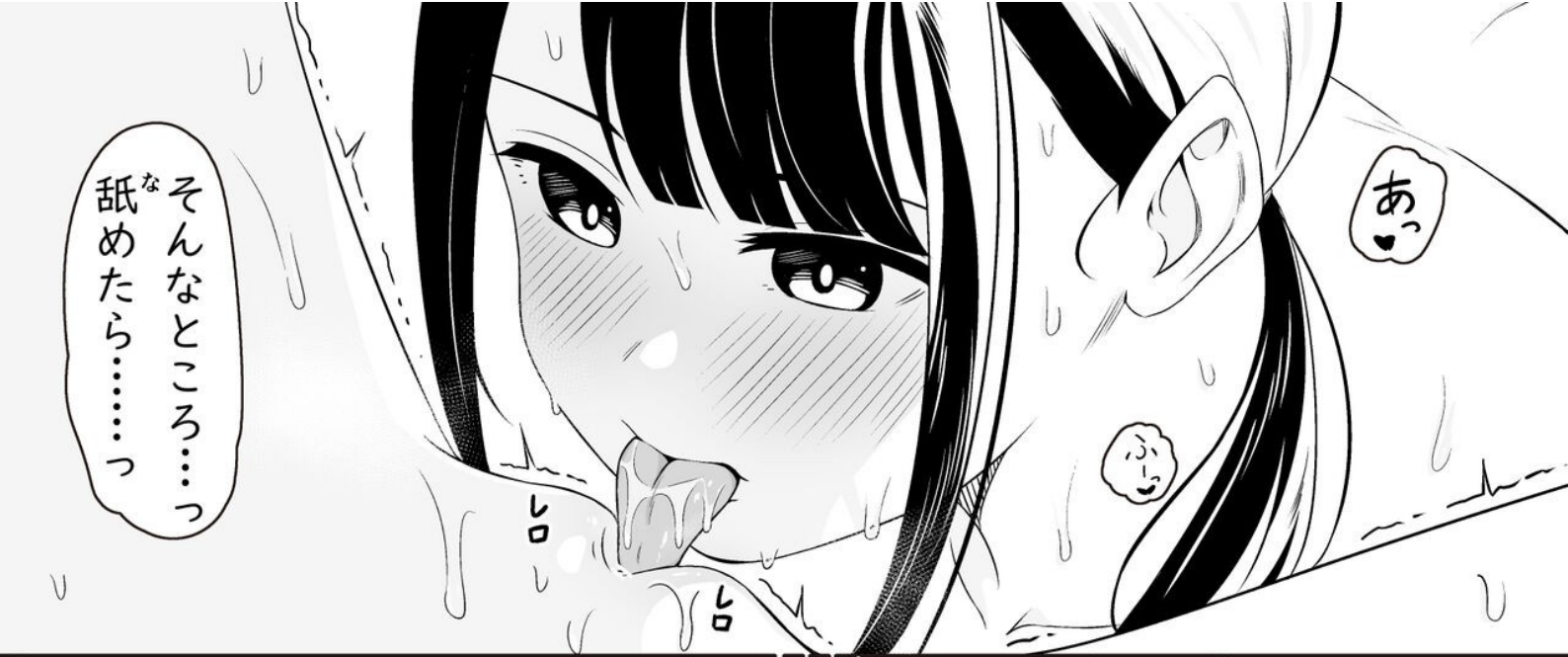
この体勢
は
恥ずかしい…っ

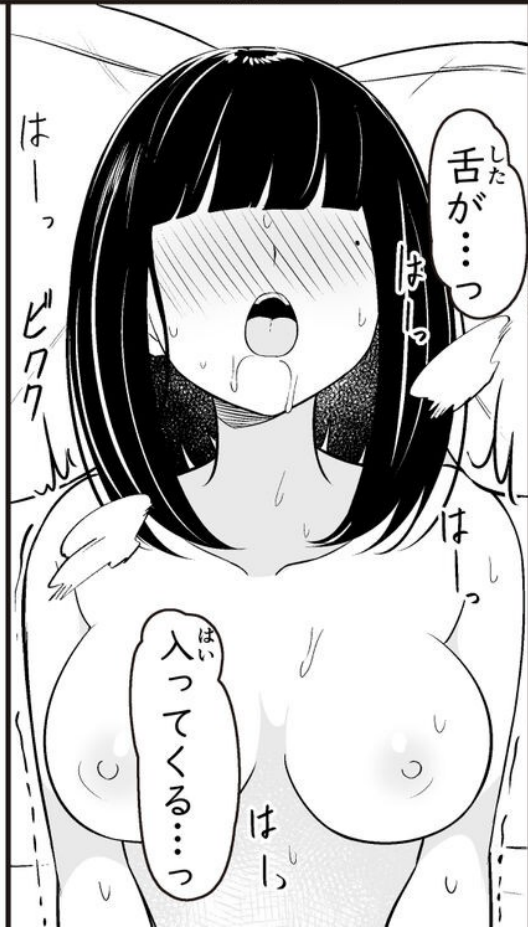


ヌト…



可愛いですよ







先輩
せんぱい

わたし
あなた
私。。。貴方のことが



あした
また明日
がっこう
学校で

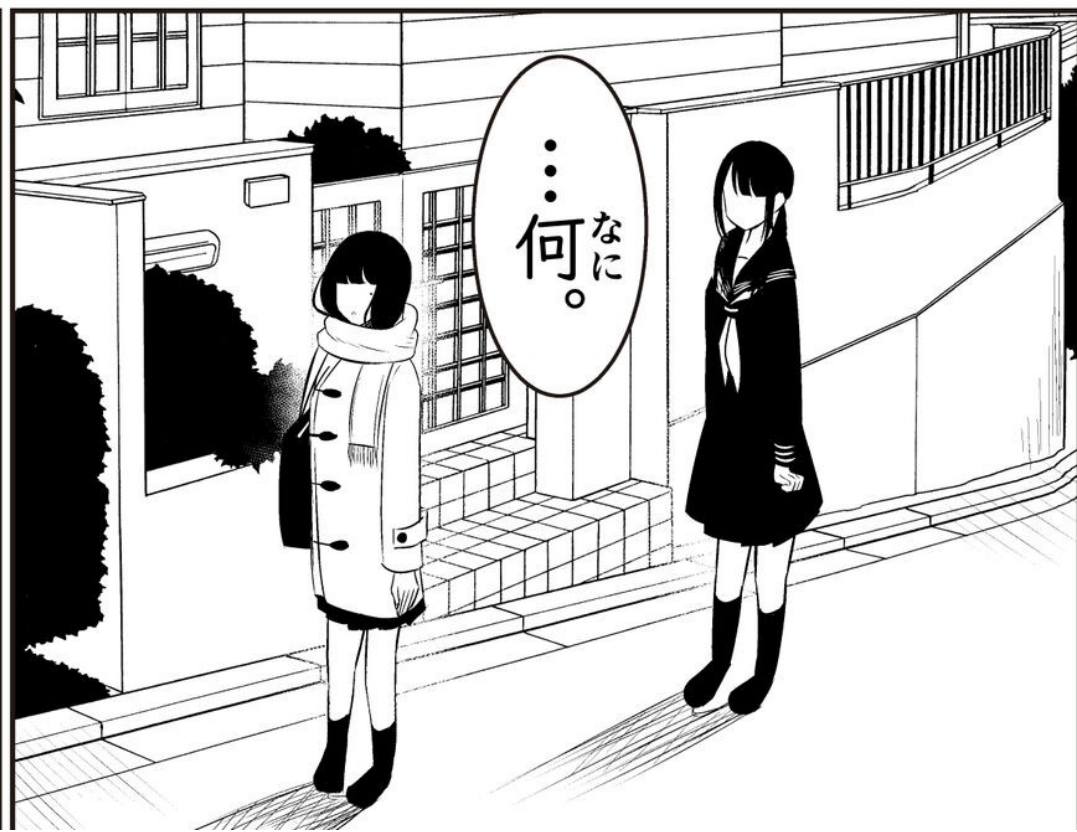


だいじょうぶ
大丈夫。

えき
駅まで
おく
送りましょうか？



あの…
せんぱい
先輩!!



なに
何。

あい
愛しています





「……そう。」



あとがき

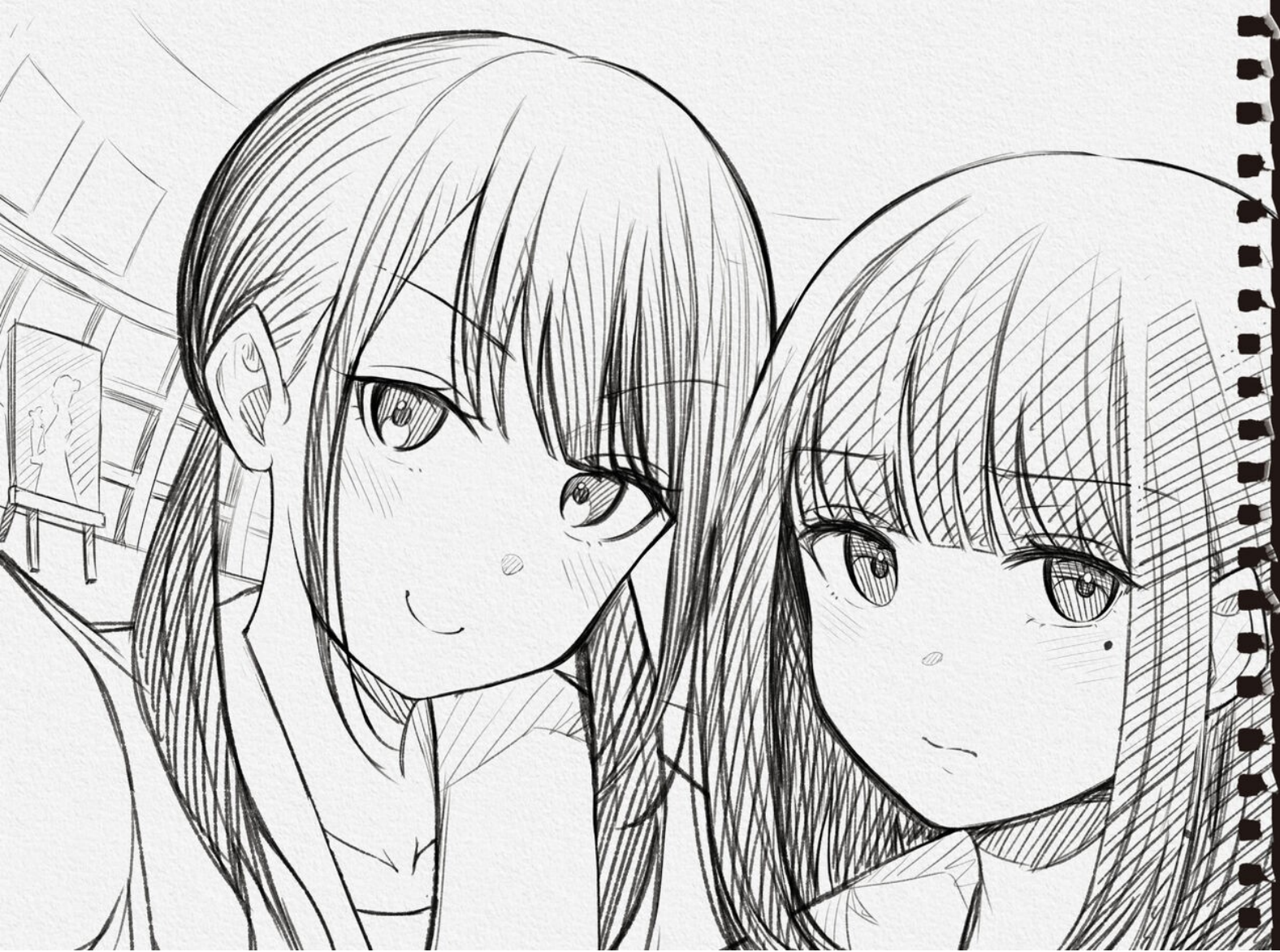
「先輩」と「私」を手にとってくださり、ありがとうございます。

本書のテーマは、「少ない言葉で気持ちが伝わる、そんな関係」でした。隣に立つだけで世界が美しく見える、そんな二人を見たくて描いた話です。

値段に対してページ数が少ないことに、ずっと罪悪感を感じていたので、今回は思い切って40ページにしてみました。ものすごく大変でしたが、その分、いい作品になったと思います。……たぶん。

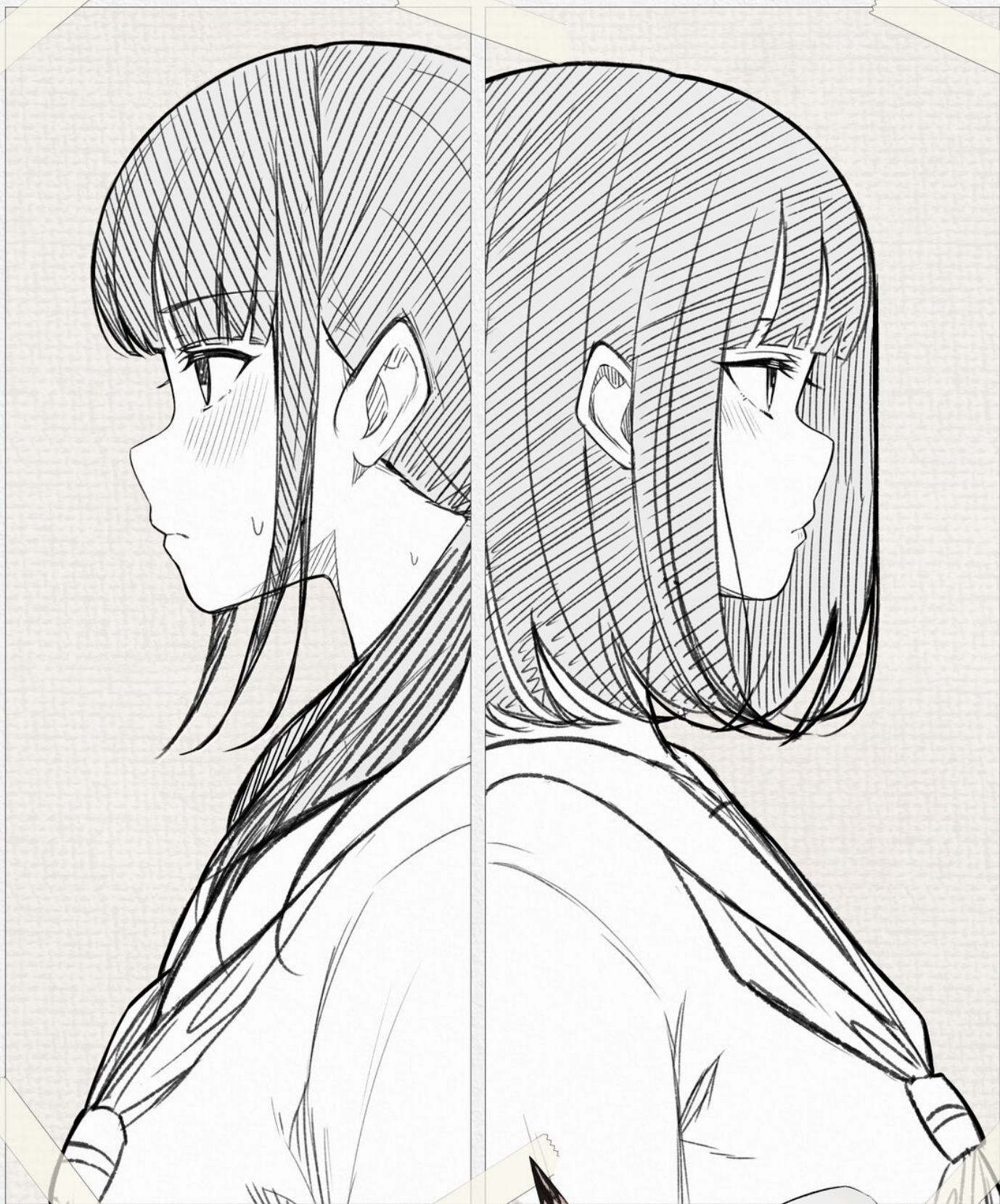
では、またどこかでお会いしましょう。またねっ。

桜ゆう



せんぱい
「先輩」と「私」

さくら
桜ゆう



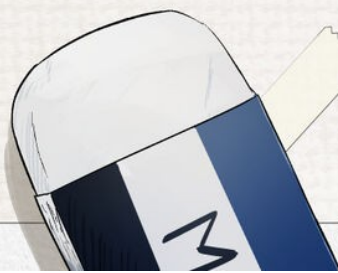
「先輩」

美術部の先輩。2年生。
黒髪ボブのいかにも文系といった
感じの見た目。実際は数学の方が
得意。
教室ではいつも一人で本を読んでいる。
クールで人を寄せ付けない印象



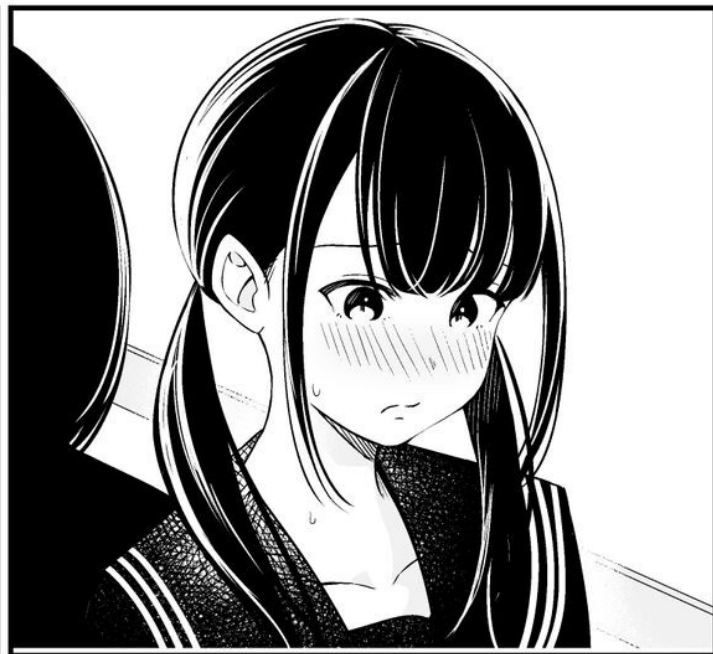
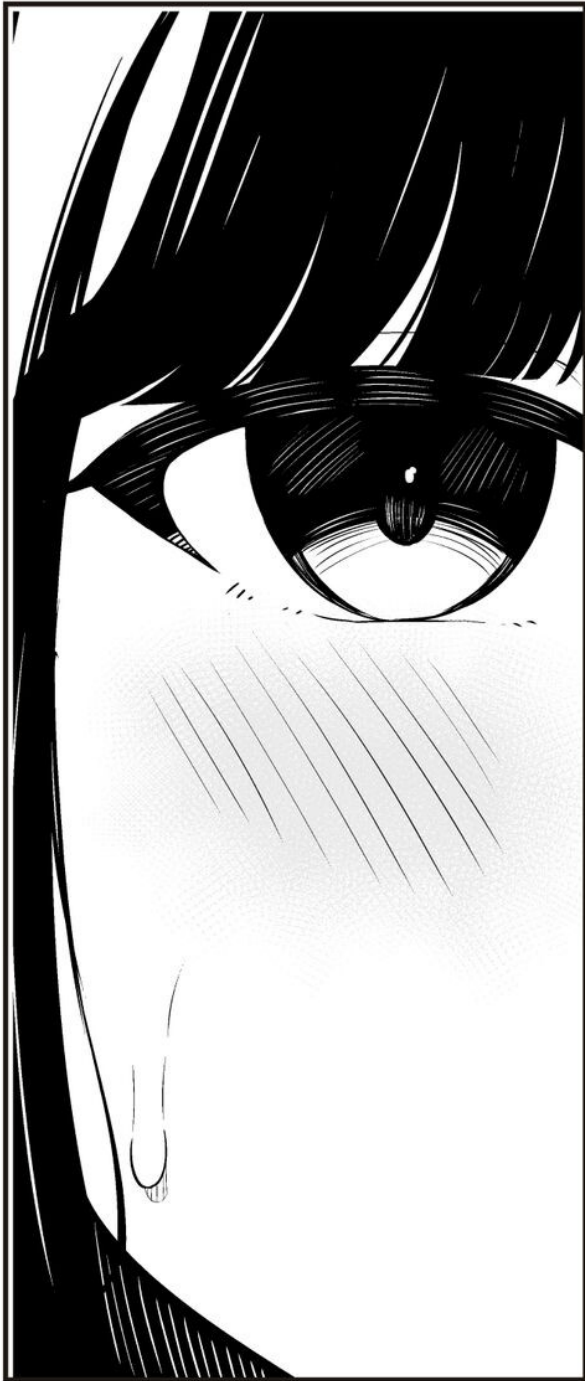
「私」

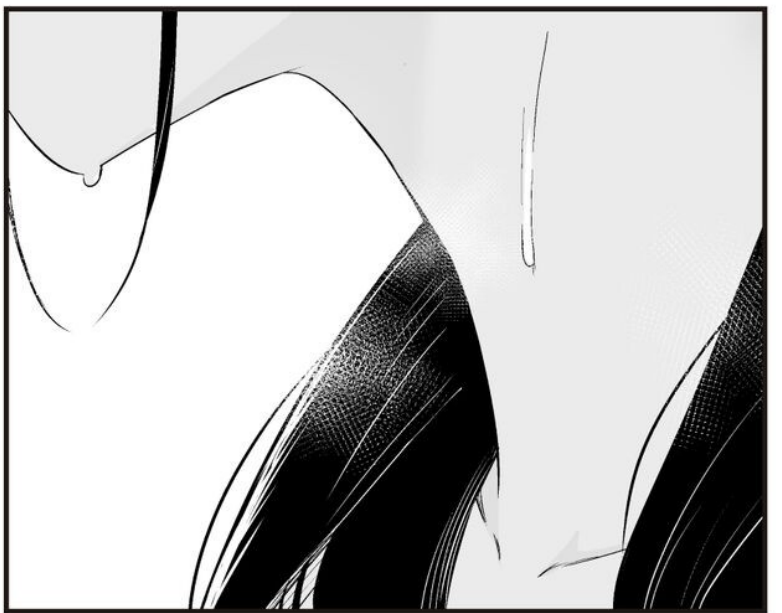
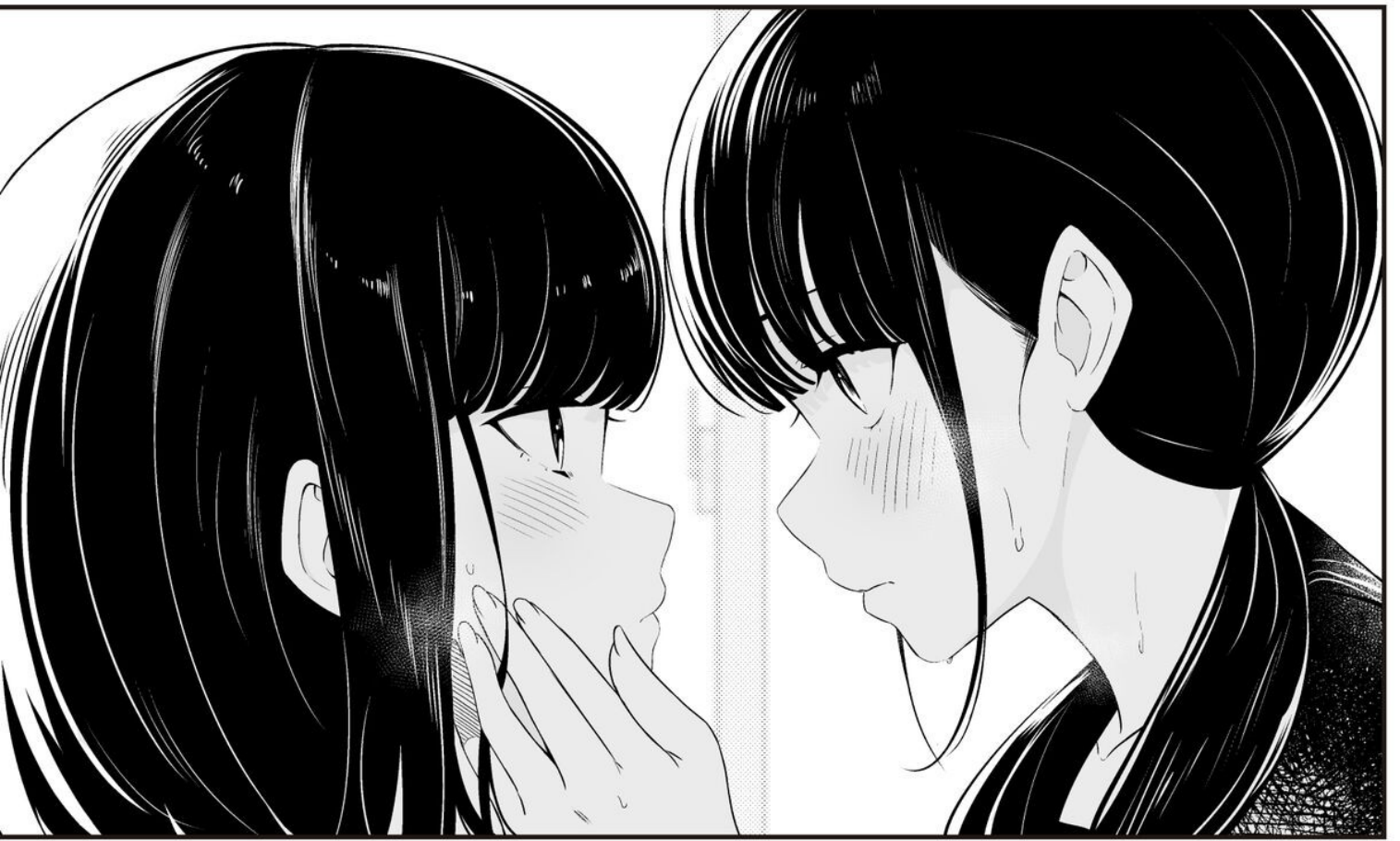
先輩に一目惚れして美術部に入る。
先輩と同じ高校に行きたいから、
勉強を頑張ってるらしい。
先輩はこっそり志望校のランクを
少し下げたとか。
要領は悪いけど人一倍努力家。

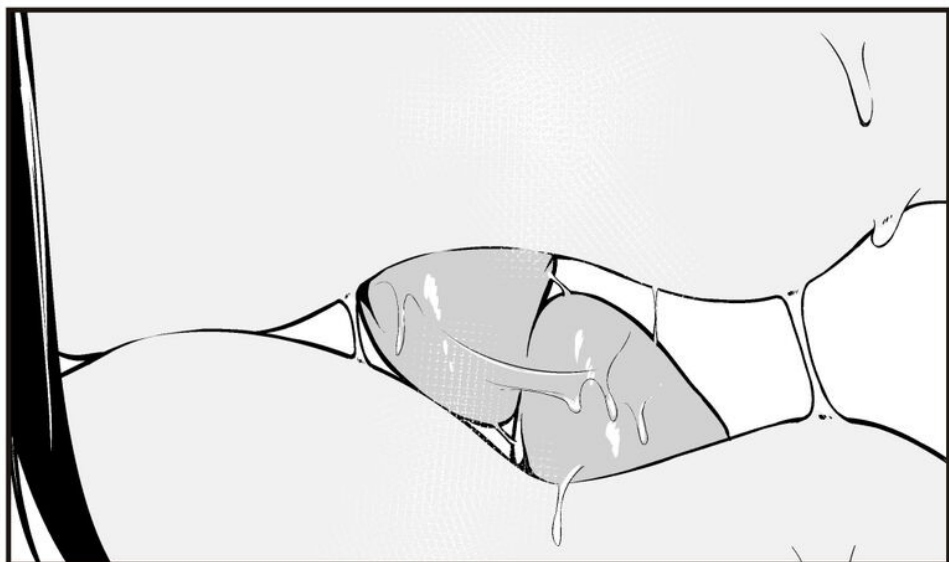
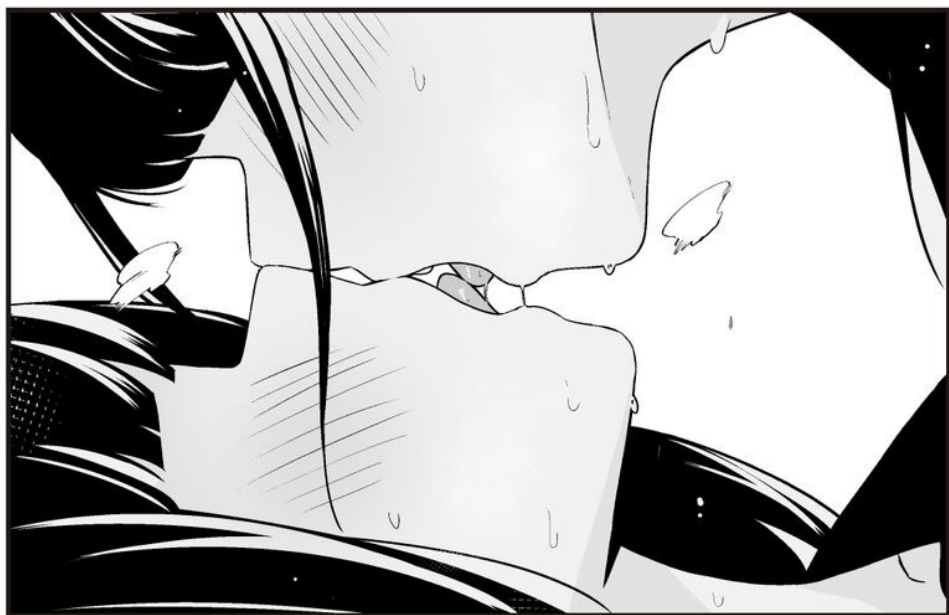


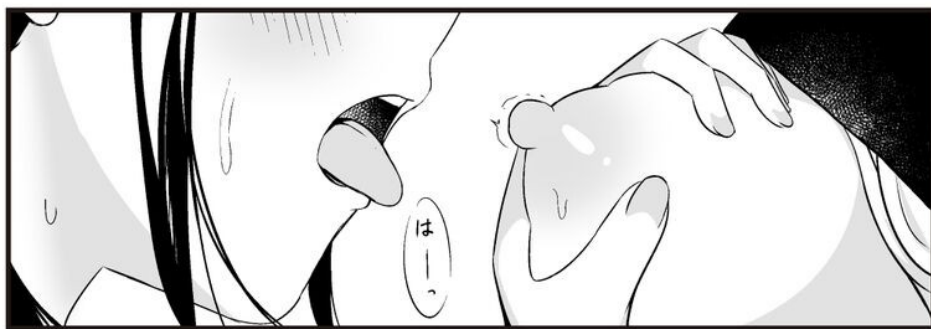
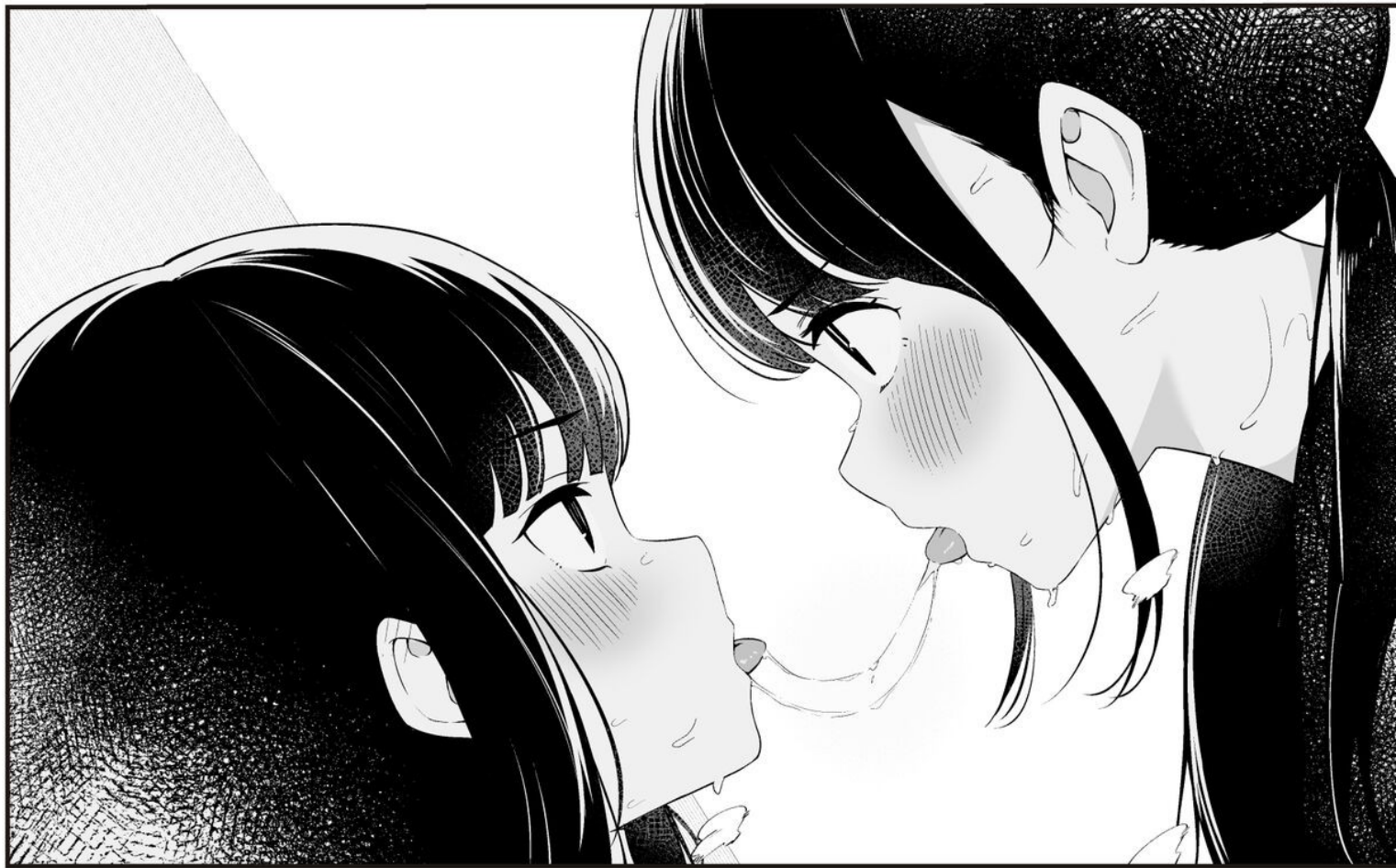
セリフなし おまけコーナー







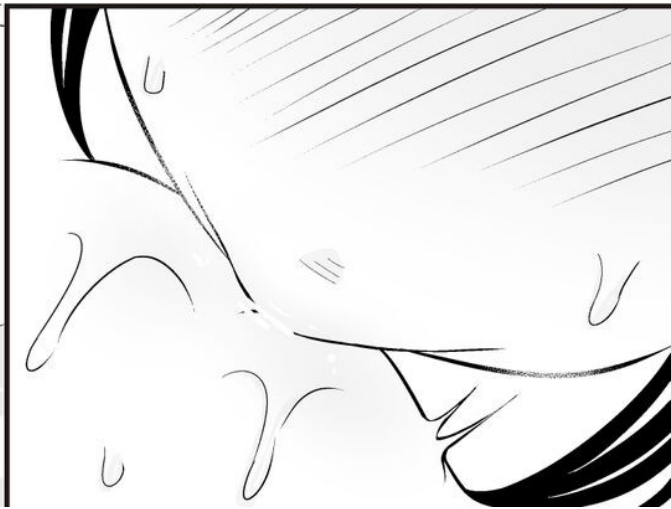
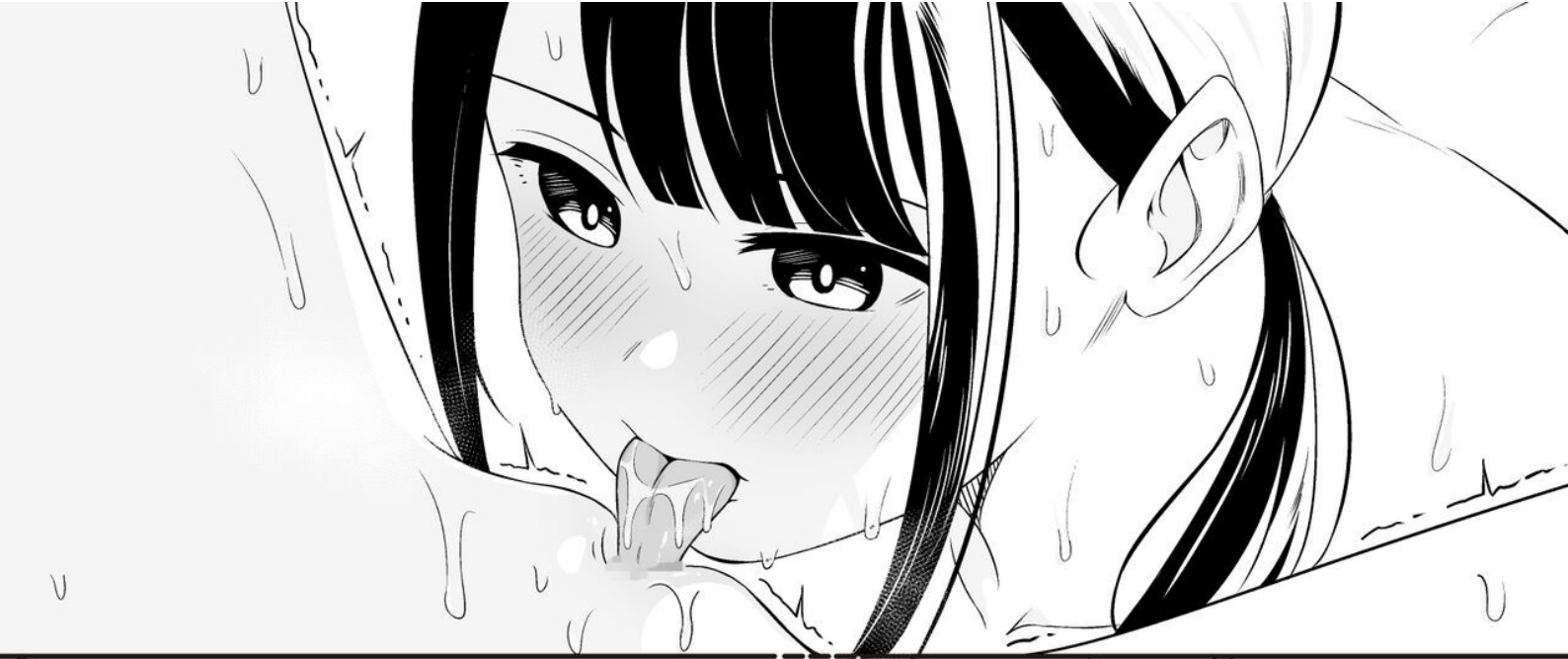


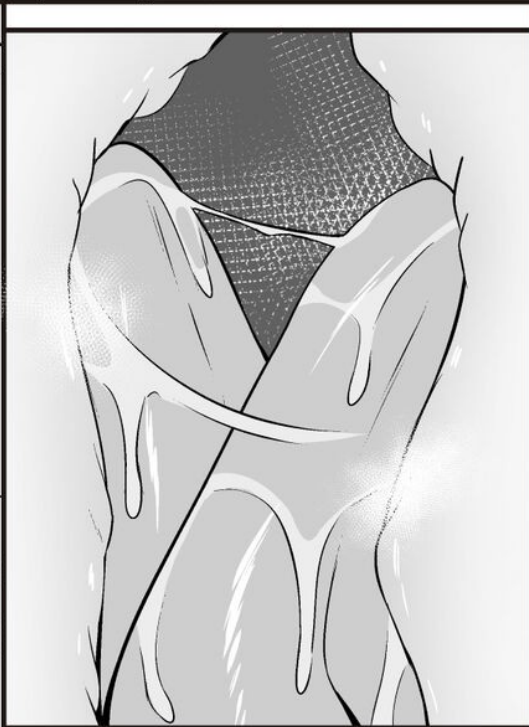
















またね！

漫画：桜ゆう

協力：SAKURA—YU

君と青い

キスを。

← 作中で「私」が読んでいた漫画

2

SAKURAYUCOMIC